

平成23年度

教育学部における地域連携活動



茨城大学教育学部地域連携委員会
茨城大学教育学部附属教育実践総合センター

はじめに

茨城大学教育学部地域連携委員会委員長
茨城大学教育学部附属教育実践総合センター長
村野井均

「教育学部における地域連携活動・2011年度」を報告いたします。2011年3月11日には、東日本大震災が起こり本センターも異例の対応を迫られました。地震が起きたのは、後期入試の前日だったため、試験場の下見に訪れた受験生が歩く中、多くの教職員が入試準備に取り組んでいました。耐震補強が済んでいたために建物は倒れなかったですが、断水、停電になり、すべての建物が立ち入り禁止となり、1週間は休業となりました。食料もガソリンもないと言う状態で、片付けから初めたのですが、附属小学校の被害が大きく、手助けをする必要があることがわかり、ボランティアの募集を行うことにしました。2010年に作った携帯電話へ情報を届けるシステムで呼びかけを行いました。年度末で、学生達がいな時期なのでどれだけ集まるか不安でしたが、メール発信より20分後にはボランティア希望の電話が鳴り始めました。詳しい報告は、報告書内で行いますが、学生達に力を発揮する場を与えれば、彼らは強力な力を発揮することを体験させてもらいました。学生達のやる気とエネルギーに突き動かされた1年でした。

また、今年は改革の1年でもありました。現在、教員養成制度が大きく変わろうとしています。中央教育審議会において、教員免許、免許取得年限、教員免許取得に必要とされるカリキュラムの見直しが検討されつつあります。これに対応できるように、教育実践総合センターの機能を大きく変えることにしました。

まず、現在の2部門4分野体制から、教員養成支援部門と地域教育支援部門の2部門に整備します。現在、教育実践研究指導部門は、教育実践カリキュラム研究開発分野と情報教育研究指導分野からなっていますが、教育実践機能を絞り、教育実習の長期化・高度化に備え、教育実習の計画立案や実習に関する相談を行う教員養成支援部門とします。小学校教室サイズの模擬授業室を設け、教材教具作成室と機器共同利用室を連携させ、学生・院生がいつでも模擬授業を行ったり、教材を作ったりすることができるようにします。

もう一つの地域教育臨床部門は、地域臨床教育相談分野と地域学校運営支援分野からなっています。教育学研究科学校臨床心理専攻が、(財)日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士養成第1種指定大学院を申請することに伴い、地域臨床教育相談分野の心理教育相談室を独立させることにしました。そこで、地域との連携を主任務とする地域教育支援部門を新設し、ボランティア活動の支援と、附属学校との連携、地域学校の支援を行うことにしました。そして、教育実践総合センターの場所を、現在の建物から教育学部A棟2階へ移動します。これにより学生・院生だけでなく、教員が訪れやすくなります。事務室と模擬授業室や機器共同利用室の機能を連携させて、利便性を向上させます。

大きく発展する教育実践総合センターへ、今後ともご協力をお願いいたします。

目 次

はじめに

特集 東日本大震災ボランティア	1
茨城県教育委員会との連携活動	8
各教育委員会との連携事業	9
茨城県教育研究連盟との連携活動	10
教育実践総合センターボランティア派遣報告	
全体のまとめ	13
水戸市教育委員会からの学校支援活動報告	15
水戸市学校支援ボランティア募集一覧	17
県内教育支援ボランティア募集一覧	23
附属学校園と教育学部の連携研究	
連携研究を推進する体制	26
補助金採択リスト・連携研究の把握	26
連携研究の届け一覧	28
教育学部の公開講座	32
心理教育相談室の活動	33

その他の活動

鹿島灘高校・結城二高キャンパスエイド	37
JICAへの協力	38
理科支援員配置事業	40
実践センター主催 情報教育講演・講習会開催	
「電子黒板・電子教科書の可能性を考える	
～これからの学校教育の情報化について～」	42
茨城大学教育学部第1回附属学校フォーラム開催	
「地域のモデル校としての附属学校」	44
茨城地域教育臨床研究会	47

報道関係

文教ニュース・文教速報への掲載	48
-----------------	----

特集 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日の東日本大震災では、多くの茨城大学学生がボランティア活動に参加し復旧へ協力しました。

特に茨城大学教育学部附属小学校は震災で大きな被害を受け、3年生以上の12教室、特別教室4教室等が使えない状態になりました。4月1日に机・ピアノ等学用品の移動、掃除、新教科書をクラス別に分類し搬入、新入生向け下足箱の移動等を行いました。4月7日は入学式終了後、体育館を仮設教室に作り替えるために机・イス・黒板・教卓・仕切り等の移動を行いました。また、音楽室・教育実習室等を仮設教室に作り替え、授業できる体制を整えました。給食室の清掃、コンテナ洗浄・整頓を行い給食が作れる体制を整えました。図書室では、落下した本・図鑑を図書番号に沿って書架に戻しました。また、環境美化のためにプランター作りを行い、土掘り、肥料混入、パンジーの移植を手伝いました。4月14日より給食が始まりましたが、通路となる校舎が被災し、改修中なため、給食室から給食が運べない状態でした。コンテナに詰めてトラックで体育館に運び、体育館からコンテナを押して各校舎に運んでいました。コンテナは大変重いので、1学期の給食終了まで、学



学生ボランティアの活動を伝えるポスター

生ボランティアを派遣しました。また、図書室、視聴覚室、図工室の三部屋を5年生の3クラスに流用していたのですが、大きいテーブルでは長時間座っていると児童の座る姿勢が悪くなるため、4月26日には被災した校舎よりテーブル、イスを取り出し、洗浄し入れ替えました。

また、水戸市教育委員会からの要望により、幼稚園の保育補助、小学校の図書館の本の整理、児童の遊び相手・相談相手等の要請があったため40名を派遣しました。

その他、4校からの要望により、パソコン室の整備、図書の片付け、体育館引っ越し支援などへ26人を派遣しました。

○震災ボランティア活動状況

No.	学校名	支援内容	延べ人数	No.	学校名	支援内容	延べ人数
1.	附属小学校	復旧支援	35人	7.	第一中学校	図書室整備	8人
2.	附属小学校	特別教室整備	13人	8.	堀原小学校	パソコン室整備	4人
3.	附属小学校	給食支援	76人	9.	緑岡中学校	本の整理・片づけ	11人
4.	内原幼稚園	保育補助	5人	10.	大島中学校	図書室整備	2人
5.	笠原小学校	環境整備補助	9人	11.	常北中学校	引越・片づけ	9人
6.	赤塚小学校	児童の遊び相手	18人			合計	190人

○ 東日本大震災ボランティア活動報告会を開催し、学生へ活動証明書を渡しました

「東日本大震災ボランティア活動報告会」を2011年10月6日(木)に行いました。震災直後、即時に対応できる大学が少ない中、教育実践総合センターは、附属学校の他、近隣の公立学校も含め、特に教育現場での復旧作業などにあたれる学生ボランティアを募集し、のべ190名を派遣しました。

彼らの活動に対し、「せめて活動の証明書だけでも渡したい」という思いから報告会を開催しました。尾崎久記教育学部長は「震災という体験を通して、みなさん自身も被災者という立場でいろいろ気づいたこともあったかと思います。今回の経験を活かして、これからも勉学に励んでください」と挨拶しました。

ボランティア活動報告会では、附属小学校で教育施設の復旧や力仕事の給食運搬作業を行った社会選修4年の岡崎直也さんと、幼稚園で子どもたちの保育補助等のボランティアを行った数学選修2年の猪狩沙代子さんが報告をしました。

最後に、学部長から活動証明書が参加学生一人一人に手渡されました。

東日本大震災ボランティア活動報告会&活動証明書授与式次第

日 時 平成 23 年 10 月 6 日 (木) 12:10 ~ 12:50

場 所 教育学部 B 棟 208 室

内 容 1) 教育学部長挨拶 尾崎 久記

2) 「附属小学校の震災前後」

教育実践総合センター長 村野井 均

3) 附属小学校長挨拶 田中 健次

4) ボランティア活動報告

学生報告者 岡崎 直也 . . 附属小学校支援 教育学部社会選修 4 年

猪狩沙代子 . . 内原幼稚園支援 教育学部数学選修 2 年



あいさつする尾崎久記学部長



あいさつする田中健次附属小学校長



写真左 報告をする岡崎直也さん
(教育学部学校教員養成課程 4 年)



写真右 活動証明書を受け取る
猪狩沙代子さん
(教育学部学校教員養成課程 2 年)

〈附属小学校復旧支援〉



かけつけたボランティア



学用品の移動



新教科書を分類し、クラスへ搬入

附属小学校保護者の声

春休みからこの一学期、この附属小にはたくさんの学生ボランティアの皆さんが来てくれました。

震災後の荷物のかたづけやそうじ、ロッカーや本棚、靴箱、机、椅子の運搬、仮教室づくり…。さらには、一学期間毎日の給食の運搬…。ボランティア活動が終わると大学に戻って授業を受ける学生、反対に授業を終えてから活動に来てくれた学生。「大学卒業後は先生になりたいです。子どもたちや先生のために何かできればと思って…」「昨年度、教育実習でお世話になった恩返しです」動機は様々ですが、共通なのは「子どもが好き」という気持ちです。「ここから気をつけて運んでね」「すごい。力持ちだね」など子どもたちに声をかけながら活動してくれた給食時。たくさんの力と温かい心に支えてもらった一学期でした。

東日本大震災の記録文集－震災をのりこえて－，茨城大学教育学部附属小学校
2011.7より

始業式直後に体育館を3つの仮設教室へ作り替え



給食運搬支援



写真左 給食を運ぶ廊下が使えないため、トラックにキャスターを乗せて迂回。

写真右 猛暑の中、この給食コンテナ運びを支援しました。

〈堀原小学校パソコン室整備〉



〈内原幼稚園保育補助〉



この支援は、JANU 国立大学協会情報誌「復興と再生に向けて」2011.NO.1, NO.3 で国立大学学生ボランティアの例として紹介されました。

震災ボランティアを経験して

教育学部社会選修4年 岡崎 直也



平成23年3月11日の東日本大震災により、茨城大学教育学部附属小学校は大きな被害を受けた。そのため私は、震災復興ボランティアとして附属小学校の復旧活動に参加させて頂いた。

参加したきっかけは、震災後自分にできることはないかと考えており、何か活動がしたいという気持ちであった。そうした中で附属小学校の震災復興ボランティアの情報を得た。附属小学校は教育実習でお世話になった小学校であり、児童とふれあい多くのことを学ぶことのできた学校であった。その附属小学校が震災の被害を受けたと聞き、今度は自分が附属小学校のために、児童たちのために行動しようと思い、参加に至った。

ボランティアで実際に行ったことは、各部屋や器具の清掃、体育館や音楽室に机やイス、黒板などを設置しての仮教室づくり、新年度から使う教科書の仕分け作業、倉庫の荷物や図書室の整理と片付けなどである。力仕事や大人数でやらないと捗らないという作業が多く、先生だけ、あるいは学生ボランティアだけという形ではなかなか大変なものであったと思う。

活動に参加して感じたことは、まず緊急時における附属小学校の諸先生方の動きである。これまでに経験したことのないような地震が起きた後であっても、私たちボランティアの学生に的確な指示を与えながら、自分たちもしっかりと動き働いている姿は本当にすごいと感じた。今後教員を目指す私にとって、とても参考になる姿を見せてもらうことができたと思える。

そして、自分にもできることがあるのだということを実感できたことである。はじめは屋根が崩落していたり柱が折れてしまっていたりと、私の想像以上の被害が出ている附属小学校にショックを受けていた。本当に学校としての機能を取り戻せるのかとも思った。しかし活動が始まると、ゆっくりとだが学校としての姿が見えるようになっていった。それを間近で感じることもできたからこそ、「もっと頑張ろう」と思い復旧活動ができたと思う。震災復興ボランティアの最終日に、附属小学校のある先生に「本当に学生ボランティアが来てくれてよかった」と言われたときにはとても嬉しかったと同時に、充実感が得られた。実際に児童たちが登校してきてから、また難しいところや足りないところが見えてくるのはわかっていた。しかしそれまでの活動を通して、自分でもやれることがあったのだということを感じられたからである。

私はその後附属小学校には給食配膳のボランティアにも参加させて頂き、小学校として再開した附属小学校を見ることができた。児童たちがこれまでと同様に学校に通えるようになったこと、友達と休み時間や給食の時に笑顔で話していたところを見て、本当に参加してよかったと思えた。私自身、附属小学校には教育実習中に先生方に、そして児童たちにたくさん助けられ、支えてもらった。しかし、今度は私がこうして震災復興という形で附属小学校を助けることができたと思う。この「助け合う」「支えあう」ということの意味、大切さを改めて感じることもできた活動であったと思う。

茨城県教育委員会との連携活動

1、茨城県教育研修センターへの講師派遣

従来から教育学部教員は、茨城県教育研修センター（笠間市）での各種研修事業に協力してきた。研修事業のうち、10年経験者研修に大学として積極的に関わるために、平成18年3月に研修センター所長と教育学部長との間で連携協力に関する「覚書」に調印した。講師の人選にあたっては、両者が相談して決定することとした。大学側の調整窓口として、附属教育実践総合センター長があたることとなった。平成23年度10年経験者研修の講師は以下の通りである。

松村多美恵	講義・演習「障害のある児童生徒のアセスメントと指導」(小・中)	平成23年8月29日
新井 英靖	講義・演習「センター的機能と特別支援教育コーディネーターの役割」(特)	平成23年11月30日
上地 勝	講義「生活習慣病の予防」(養)(栄)	平成23年6月15日
守屋 英子	講義「児童生徒の発達課題」(養)	平成23年7月5日
上地 勝	講義「健康管理の解決に向けた健康教育の理論と方法」(養)(新栄教)(栄)	平成23年11月1日

2、県立鹿島灘高校と県立結城二高へのキャンパスエイド派遣

高校教育課と連携して、県教委が推進する県立高校の新構想・フレックススクールにキャンパスエイドを派遣している。平成17年度に開校した県立鹿島灘高校への派遣から開始し、平成20年度からは県立結城第二高校への派遣も加わった。大学側の窓口は、大学院学校臨床心理教室で、定められた実施要項に基づいて、高校教育課と綿密な連携のもと実施されている。資料「その他の活動」参照。

各教育委員会との連携事業

各地の教育委員会との連携活動には、大学との連携協定に基づいての活動や、協定がなくても両者が綿密に連携をとっての活動、学生のボランティア活動を通じての連携等様々なレベルで実施されました。この内、連携委員会が事業として受けとめた活動を中心に報告します。有意義な、円滑な事業の推進には、大学と各教育委員会との事前の十分な協議が何よりも必要であると痛感しています。

1、水戸市教育委員会

それまでバラバラであった学校支援の学生ボランティア活動が、平成16年水戸市教育委員会と教育学部との連携協定によって統括されました。その後、協定は水戸市と茨城大学との包括協定に格上げされました。水戸市内の学校園に学生ボランティア派遣業務は、水戸市側は水戸市総合研究所、大学側は附属教育実践総合センターが窓口になっています。学生ボランティアについては、資料「ボランティア活動報告」を参照してください。なお、教育総合研究所運営委員会にセンター教員（村野井）が入っています。

また、理科支援委員については、説明会を3回開催しました。水戸市内の小学校12校へ14名の学生が支援委員として協力しました。

2、鹿嶋市教育委員会

平成17年10月に茨城大学と鹿嶋市との間で連携協定が締結され、18年から教育学部として、教育分野の連携活動を開始しました。23年度は、協定の主旨に基づき、鹿嶋市の教育向上を目的に、校内研修への支援事業を実施しました。

① 国語教育部の研修講師

- ・鹿嶋市立豊郷小学校
- ・講師：昌子 佳弘 先生

②英語教育

「鹿嶋市の小学校英語の成果の検証について」

- ・鹿嶋市立鹿嶋小学校
- ・講師：猪井 新一 先生

3、神栖市教育委員会

教育長、教育指導課と昨年までの反省と学力向上の評価等今後の連携に向けて話し合いましたが、具体的連携は行われませんでした。

茨城県教育研究連盟との連携活動

茨城県は茨城大学、茨城県教育委員会、茨城大学校長会、茨城県教職員組合など教育関連諸団体が大同団結して茨城県教育連盟を組織しています。会長は教育学部長が務め、茨城大学長と茨城県教育長が顧問に就いています。連盟の任務は、機関誌「茨城の教育」の発刊、研究集会の開催、教育情報の収集と集積です。教育学部教員は連盟役員の幹事・幹事を勤め、研究集会の分科会に助言者として参加しています。教育研究連盟の活動は、大学としては地域の教育の充実を担う重要な活動となっています。

1、第56回茨城県教育研究連盟研究集会の開催

2011年10月8日（土）に茨城大学水戸キャンパスにおいて、第56回茨城県教育研究連盟研究集会が開催されました。

全体会では、小泉晋弥茨城大学教育学部教授による「六角堂の復興にあたってー六角堂の21世紀への意義」と題した講話が行われ、参加者たちは震災で消失した六角堂の茨城県における重要性などの話に耳を傾けていた。

分科会は教養棟、教育学部、教育実践総合センターに分かれて行われて、22分科会で246本の実践レポートが報告されました。茨城の様々な地域から、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の先生達約600人が参加しました。また、当日参加が80名いました。集計には入っていませんが、学生も参加して茨城県の教育実践を聞き、討論に参加しました。茨城大学教育学部はすべての分科会に助言者を出し、討論に加わりました。今年は、特に東日本大震災があったため未だ復旧・復興の途中にある教育現場もある中で、例年通り開催されたことに関係者もほっとした様子でした。

参加者増加の背景には、教育研究所のホームページを立ち上げ、いつでも要項を見ることができるようになったこと、教育学部島田研究室がポスターを制作して広報に協力したことも要因と言えます。

この模様は、文教速報（2011.10.19）、文教ニュース（2011.10.24）に掲載され、全国の国立大学へ紹介されました（50ページ参照）。



第 56 回茨城県教育連盟研究集会



全体の様子

2011年度
茨城県教育研究連盟助言者名簿

茨 城 大 学

番号	研究分野	助 言 者	
1	国語教育	昌子佳弘	
2	外国語教育	猪井新一	
3	数学教育	小口祐一	
4	社会科教育	村山朝子	
5	理科教育	山本勝博	小野義隆
6	生活科・総合・環境教育	郡司晴元	杉本憲子
7	技術教育	野崎英明	
8	家庭科教育	佐藤祐紀子	
9	音楽教育	藤田文子	
10	美術教育	金子一夫	甲斐教行
11	保健教育	廣原紀恵	
12	体育・保健体育教育	上地勝	
13	特別活動	田中正彦	
14	道徳教育	生越達	
15	生活指導	三輪壽二	
16	進路指導	望月厚志	
17	情報化と教育	本田敏明	岡部千草
18	幼年期の教育と保育問題	渡部玲二郎	
19	特別支援教育	松村多美恵	
20	教育条件整備と教育の問題	加藤崇英	
21	個性の尊重とその評価	村野井均	
22	人権保障と共生の教育	小川哲哉	

2、教育研究連盟改革検討委員会への協力

茨城県教育研究連盟研究集会に関わる諸問題について検討委員会を設置し、各構成組織において意見交換し、原案を作成しています。茨城大学からは、事務局長の巽申直と村野井均が参加して討論に加わりました。

3、「茨城の教育」のWEB化への協力

上記改革検討委員会において検討課題となった機関誌「茨城の教育」は、発表者になればよく参照するのですが、日常的にはバックナンバーの管理、雑誌代金の支払い方法等が学校ごとに異なっており、使いにくいという声がありました。茨城大学教育研究所にホームページを作り、デジタルデータとして保存し、閲覧しやすくすることになりました。

茨城大学教育学部教育研究所のアドレスは以下です。

<http://erc.edu.ibaraki.ac.jp/soshiki.html>

茨城県教育研究連盟のホームページは以下です。

<http://erc.edu.ibaraki.ac.jp/renmei/index.html>

雑誌「茨城の教育」は、第 55 回 茨城県教育研究連盟 研究集会報告『茨城の教育』（平成 22 年度）よりWebで見ることができます。

また、教育研究推進資料 は第 56 回茨城県教育研究連盟研究集会のものから見ることができます。



茨城県教育研究連盟ホームページ ヘッダー

教育実践総合センター教育ボランティア派遣報告

全体のまとめ

教育実践総合センターは、教育ボランティアの派遣を行っています。先生の仕事を知り、子どもたちと触れ合っほしいため教育に関連したボランティアを派遣しています。

この事業は2つに分かれます。水戸市学校支援ボランティアと茨城県内教育支援ボランティアです。今年度は、東日本大震災があったため、急きょ震災ボランティアを派遣しています。

今年度のボランティア派遣学校園は全体で81件、派遣学生は延べ825人です。震災ボランティアが190人、通常の教育ボランティアが635人です。昨年（2011年）は派遣学校園74件、派遣人数が282人ですので、大幅に増加しました。震災をきっかけに若者が変化したといわれていますが、茨城大学でも同様なことが生じていることがわかります。彼らの力を発揮する場としてボランティアは大切な活動になっています。

教育ボランティアでは、担当者が内容確認を行い、学校へ出向くときの服装等も指導するので、取り立てて問題は起こりませんでした。ただし、震災ボランティアは復旧活動なので、肉体労働も受け入れました。

学生への周知は、ポスターと携帯電話へのメールで行っています。2012年4月より教育実践総合センターが、教育学部A棟2階へ移りますので学生にとって気軽に立ち寄れるところになります。ボランティアの単位化の動きもにらみながら、派遣を続けてゆきたいと思います。

2011年度 教育ボランティア派遣人数

区分	派遣学校園数	派遣人数(延べ)
震災ボランティア	9	190
水戸市学校支援ボランティア	23	445
茨城県内教育支援ボランティア	49	190
合計	81	825

(1) 水戸市学校支援ボランティアのまとめ

水戸市教育委員会が市内の学校の要望をとりまとめ、前期(5月)と後期(10月)に実践センターへ募集一覧を送ってきます。実践センターは、活動開始前に希望学生を対象にガイダンスを実施し、ボランティアに対する心構えやボランティアの流れについて説明します。ボランティア希望学生にあらかじめ登録をしてもらい、ボランティア情報を携帯電話など登録したアドレスに情報提供しています。年度初めの一括申し込み以外にも、各学校から様々なボランティア申請があり、そのような募集にも対応できるようにしました。活動終了後は水戸市教育委員会から活動証明書が発行されます。募集内容は17～22ページに掲載します。

2011年度 水戸市震災対応学生派遣状況 内訳

派遣先	派遣学校園数	派遣人数(延べ)
幼稚園	1	5
小学校	2	27
中学校	1	8
計	4	40

2011年度 水戸市学生派遣状況（通常募集）

派遣先	派遣学校園数	派遣人数（延べ）
幼稚園	8	57
小学校	11	290
中学校	4	98
計	23	445

【事業担当】

- ・水戸市総合教育研究所 三宅 修 浅野 正樹 武内 祐子
- ・茨城大学教育学部
 - ・教育実践総合センター 村野井 均 鯉淵 良子 藤根 孝子
 - ・総務係 小野瀬 久美子

（２）茨城県内教育支援ボランティアのまとめ

茨城県内の教育関連機関から随時、募集を受けています。内容も多様なので、実践センターは、内容や安全性の確認を行ってから、学生へ情報提供をしています。

今年度の県内教育支援ボランティアは、派遣数53件、派遣人数はのべ216人です。担当者が、内容確認を行い、学校へ出向くときの服装等も指導するので、特別な問題は起こりませんでした。

学生への周知は、ポスターだけでなく携帯電話を使って情報提供をしています。5月のボランティア説明会などで、登録学生を増やすことが課題です。募集内容は23～25ページに掲載します。

2011年度 県震災対応ボランティア学生派遣状況 内訳

派遣先	派遣学校数	派遣人数
小学校	1	4
中学校	3	22
計	4	26

2011年度 県教育ボランティア派遣状況（通常募集）

派遣先	依頼件数	派遣件数	派遣人数	派遣内容
学校関係（幼・小・中・特別支援）	47	36	159	学習支援、活動補助、行事支援（運動会・持久走大会）等
教育委員会	4	1	7	水戸少年少女発明クラブ
社会教育関係	10	2	2	歴史館ボランティア、コミュニティルーム指導員、ヤングコール相談事業
社会福祉関係	15	7	12	夜間生活指導員、視覚障害者コンサート支援、養護施設学習支援 等
その他	13	3	10	茨城県警察大学生サポーター、そば収穫体験、JICA 茨大訪問 等
計	89	49	190	

**平成23年度茨城大学教育学部と水戸市教育委員会との地域連携にかかる
学校支援活動報告書**

水戸市教育委員会

1 支援活動の実施状況

区 分	活動人数	活動日数	主な活動内容
幼稚園 8園	18人	57日	保育補助, 園外保育引率補助, 運動会等園行事補助, 未就園児体験入園補助 等
小学校 11校	45人	290日	校外学習等引率補助, 学習支援, 児童の個別支援, 運動会等学校行事支援 等
中学校 4校	14人	98日	国語, 数学, 理科, 音楽, 家庭等の学習支援, 部活動実技指導 等
計 23校(園)	77人	445日	

※ ボランティア証明書交付人数 (実活動人数 69人)

2 幼稚園, 小・中学校の支援活動実施後の感想, 要望

(1) 幼稚園

- ・ なかよし会の行事に参加していただいたり, 幼児と一緒にゲームをしたりして, 積極的に支援している姿が見られ, 幼児ともすぐに仲良くなることができました。2名の学生からも, 「とても楽しかったので, また支援活動を希望したい。」との声が聞かれました。
- ・ スポーツ大会を実施するに当たり, 職員の人数不足が大きな課題でしたが, 学生が積極的に支援してくれたのでスムーズに実施することができました。感謝しています。
- ・ 当日の準備の説明を事前に行っていたので, 当日はスムーズに実施することができました。もう少し意欲的に動いてもらえるとありがたかったです。
- ・ 幼稚園のお願いしたい日と学生の授業のない日とがうまく一致せず, 思うようにいかない部分もありましたが, 休みの日に実施する行事や園外保育の補助などをしていただき, 大変助かりました。
- ・ 担任が出張の日に手伝っていただき, 本当にありがたかったです。これからも継続をお願いします。
- ・ 幼稚園教諭を希望する3年生の学生で, とても真面目に取り組んでいました。素直に話を聞き入れ, 教材準備を積極的に行いました。明るく温かく接してくれたので, 園児, も教職員も親しみを感じ, 大喜びでした。今後もぜひ継続してボランティアをしていただきたいです。
- ・ 運動会の開催に当たり, 事前に打ち合わせに来ていただきました。たくさんの仕事を機敏にこなしていただき, 大変助かりました。
- ・ もちつき会において, 学生に餅をついてもらいました。火おこしから写真撮影までたくさんの仕事をしていただきました。学生自身もとても喜んでくれました。
- ・ 4年生との交流や調理員さんへの感謝のつどいなど, 盛りだくさんの一日にお手伝いいただき, 大変ありがたかったです。
- ・ 震災で保育室が使用できない状況にある中で一緒に遊んでもらえて, とても助かりました。毎週来てくれたので, 子どもたちも楽しみにしていました。明るく声をかけて関わり, 活発な支援をしてくれました。とてもありがたかったです。
- ・ 子どもたちの様子をよく見て, たこの糸の絡みをとったり, 破損したところを直してくれたりしてくれて助かりました。

(2) 小学校

- ・ 熱心に学習支援をしてくださいました。児童との関わりもよく、とても充実した学習になりました。
- ・ 陸上の練習に当たって専門的なアドバイスが受けられ、大変効果的でした。練習時間が短かったので、長期に関わっていただけるとありがたいです。
- ・ 学級で一緒に給食を食べるなど、子どもたちととても仲良くしてくださいました。礼儀正しく、よく働いてくれてありがたかったです。
- ・ 児童の学習支援に入ってもらったが、きめ細やかな指導が素晴らしかった。職員室での挨拶や言葉遣いがきちんとできていて感じがよかったです。
- ・ 図書の本の整理を黙々と行ってくださりありがたかった。これからもお願いしたいです。
- ・ 室内ゲームの補助員として、児童の整列やゲームの準備、後片付けに関わってくださいました。4人の学生の活躍で、行事を円滑に進めることができました。
- ・ リコーダーの指導において、指使いに困る児童の個別指導を行い、通常よりも効率よく習熟を図ることができました。
- ・ 金管バンドの指導を、職員が会議等で不在の時にも任せることができて助かりました。指導者が増えたことで、児童へもきめ細やかに指導することができました。
- ・ 明るく元気に児童と接し、陸上競技全般の指導・助言をしてくださったので大変助かりました。
- ・ 包丁やカッター等を使った活動で個別指導ができ、安心して授業を行うことができました。

(3) 中学校

- ・ 数学の授業を支援していただき、生徒一人一人に目が届くようになって大変助かりました。
- ・ 指示された仕事に真剣に取り組む姿勢に好感がもてました。
- ・ 特別に支援が必要な生徒と打ち解けて関わってくれたので、生徒の学習意欲が増し、非常に助かりました。
- ・ 観察、実験時の支援をお願いしたかったが、必要な単元の時期と学生の支援できる期間と合わずに実施できなかった。
- ・ 音楽の授業において個別指導やパート練習を支援していただき、細やかな指導を行うことができました。

3 教育委員会からの感想、要望

今年度は、震災によって教育活動にさまざまな不都合が生じましたが、保育環境が十分に整わないなかでの通常保育の補助、震災後の落ち着かない子どもたちの遊び相手や相談相手、散乱した本の分類整理など、様々な面で素早い対応をしていただいたことに感謝申し上げます。また、その後の学校支援におきましても、多くの学生の皆様に参加していただき、幼稚園や小・中学校において熱意と責任をもって活動に取り組んでいただきました。皆様が、積極的に子どもにかかわり、若い力を教育の現場で存分に発揮されているという報告を受け、大変嬉しく感じております。

学校（園）からは毎年数多くの要望が寄せられており、学生の皆様に対する期待には、大きなものがあります。支援していただきたい内容も、多岐にわたっています。今後も、ボランティアを行う学校（園）との打合せを綿密に行い、参加日時や目的を明確にして活動していただくようお願いいたします。

次年度も、学生の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

水戸市学校支援ボランティア募集一覧

1. 震災対応募集

<幼稚園>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考
幼1	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成23年4月下旬～5月下旬	2	10	20	要相談	通常保育の補助	保育室が使用できず、4歳児60名を遊戯室で保育するため、手伝いを願いたい。

<小学校>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考
小1	笠原小学校	小野瀬繁子教頭	平成23年4月25日～28日	3	4	12	要相談	学級・学校の環境整備の補助 休み時間の児童の遊び相手・相談相手	
小2	赤塚小学校	秋葉泉教頭	平成23年4月25日～5月27日	3	10	30	要相談	休み時間の児童の遊び相手・相談相手	

<中学生>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考
中1	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年4月下旬～5月下旬	6	5	30	要相談	図書室の本の分類整理	

2. 通年分

<幼稚園>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考
幼2	城東幼稚園	中村恵子教頭	平成23年6月30日	2	1	2	9:00～11:30	A 通常保育の補助（なかよし会における歌・ゲーム遊び等）	女性、幼児と一緒に遊んだり話を聞いてあげたり等の支援
幼3	城東幼稚園	中村恵子教頭	平成23年11月5日	2	1	2	9:00～11:30	C 園行事の補助（親子スポーツ会における競技種目の準備・補助等）	女性、幼児と一緒に遊んだり話を聞いてあげたり等の支援
幼4	緑岡幼稚園	古池典子教頭	平成23年5月27日	2	1	2	8:00～13:30	B 園外保育の引率補助（見川運動公園）	男女どちらでも可、雨天延期
幼5	緑岡幼稚園	古池典子教頭	平成23年7月20日	2	1	2	8:30～11:30	A 通常保育の補助（未就園児）	女性、安全面への配慮や教師の補助
幼6	緑岡幼稚園	古池典子教頭	平成23年10月16日	4	1	4	8:00～12:00	C 園行事の補助（運動会の準備・補助）	女性
幼7	緑岡幼稚園	古池典子教頭	平成23年11月10日	2	1	2	8:30～12:00	A 通常保育の補助（未就園児）	女性、安全面への配慮や教師の補助
幼8	緑岡幼稚園	古池典子教頭	平成24年1月31日	2	1	2	8:30～12:00	A 通常保育の補助（新入園児の一日入園）	女性
幼9	石川幼稚園	辻本恵子教頭	平成23年5月11日、19日、25日、6月7日、17日、7月2日、7日、9月15日、16日、17日、10月14日、15日、11月11日、18日、12月16日、17日、22日、平成24年1月25日、2月21日	1	19	19	9:00～14:00	BC 園行事の補助、園外保育の引率補助	曜日、期間等については、学生の希望に添うように調整します。
幼10	石川幼稚園	辻本恵子教頭	平成23年5月24日、6月8日、11月2日、8日、平成24年2月8日	1	5	5	9:00～14:00	A 通常保育の補助（学級担任補助）	曜日、期間等については、学生の希望に添うように調整します。
幼11	石川幼稚園	辻本恵子教頭	平成23年6月22日、7月14日、10月15日、11月1日、12月20日、平成24年1月19日	1	6	6	9:00～14:00	C 園行事の補助（未就園児とのふれあい事業、園庭開放等）	曜日、期間等については、学生の希望に添うように調整します。
幼12	酒門幼稚園	橋本祥子教頭	平成23年10月27日	2	1	2	8:00～14:30	B 園外保育の引率補助（日立かみね公園）	バスの中や公園内の誘導、安全確認等
幼13	酒門幼稚園	橋本祥子教頭	平成23年10月14日、22日	4	2	8	14日 8:00～14:30、22日 8:00～12:00	C 園行事の補助（14日 運動会予行、22日 運動会当日）	運動会予行練習時の園児の補助・準備、運動会当日の補助

幼14	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年7月（実施日は月初めに確定）	3	1	3	要相談	C	園行事の補助（地域との交流会・水遊び）	準備と安全に活動するための補助
幼15	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年11月（実施日は月初めに確定）	3	1	3	要相談	C	園行事の補助（地域との交流会・焼き芋会）	準備と安全に活動するための補助
幼16	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年9月（実施日は後日確定）	3	2	6	要相談	C	園行事の補助（幼小中合同運動会の事前準備及び当日の補助）	道具等の制作・準備と安全に活動するための補助
幼17	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年12月13日～15日	3	3	9	9:30～（要相談）	C	園行事の補助（発表会準備）	発表会で使用する劇の道具等の製作の補助
幼18	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年5月（実施日は月初めに確定）	2	1	2	要相談	C	園外保育の引率補助（藤井川の土手への散歩の付き添い）	安全に活動するための補助
幼19	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年6月（実施日は月初めに確定）	2	1	2	要相談	C	園外保育の引率補助（ブルーベリー摘みの付き添い）	安全に活動するための補助
幼20	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年10月、11月（実施日は月初めに確定）	2	3	6	要相談	C	園外保育の引率補助（栗拾い、大井神社散歩、安土星公園散歩の付き添い）	安全に活動するための補助
幼21	飯富幼稚園	近藤祥子教頭	平成23年7月（実施日は月初めに確定）	3	1	3	要相談	C	園行事の補助（カレーパーティーの調理手伝い）	女性、子どもたちが安全に楽しく調理できるように補助
幼22	吉田が丘幼稚園	鈴木三枝教頭	平成23年6月4日	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（幼小合同運動会）	女性、幼児の援助や補助
幼23	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成23年5月～平成24年2月（実施日は要相談）	2	10	20	要相談	A	通常保育の補助	実施日時は、希望学生と相談して決定。短期間の支援も可。
幼24	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成23年6月21日	2	1	2	要相談	B	園外保育の引率補助（園外保育）	
幼25	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成23年10月26日	2	1	2	要相談	B	園外保育の引率補助（秋の遠足）	
幼26	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成23年10月22日	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（親子運動会）	
幼27	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成23年12月16日	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（もちつき大会）	
幼28	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成24年2月23日	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（卒園式準備）	
幼29	稲荷第二幼稚園	佐野祐美子教頭	平成23年11月～平成24年2月の間で1日間（実施日は要相談）	2	1	2	要相談	C	園行事の補助（スポーツ・音楽等、得意なことの披露）	実施日時は、希望学生と相談して決定。
幼30	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成23年6月3日	6	1	6	8:30～14:00	B	園外保育の引率補助（4・5歳児の遠足）	男女どちらでも可
幼31	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成23年10月15日	10	1	10	8:30～12:00	C	園行事の補助（運動会の準備・招集等）	男女どちらでも可
幼32	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成23年11月（実施日は後日確定）	4	1	4	9:00～11:30	C	園行事の補助（いもほりの手伝い）	男女どちらでも可
幼33	内原幼稚園	稲葉由美子教頭	平成24年1月（実施日は後日確定）	4	1	4	9:00～11:30	C	園行事の補助（凧揚げの付き添い）	男女どちらでも可

<小学校>

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考	
小3	五軒小学校	寺門吉郎教諭	平成23年5月23日～平成24年2月28日までの間で火曜日～金曜日の都合のよい日	4	15	60	16:00～17:00	F	その他（ピアノ伴奏、楽器の指導など合唱部、吹奏楽部の支援）	
小4	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年5月21日	5	1	5	要相談	C	学校行事の補助（運動会当日の競技等の補助）	雨天時は次の日
小5	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年6月13日～7月8日までの間で火曜日～金曜日	3	4	12	午前中2時間程度（要相談）	A	授業における学習支援（1～3年生の水泳指導の補助）	来られるときだけでもよい
小6	城東小学校	村岡康秀教諭	稲の生長に合わせて事前に連絡	3	1	3	要相談	A	授業における学習支援（5年生「お米づくり」の作業補助）	田植え日、稲刈り日、脱穀日に各1人
小7	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年10月3日～19日	2	9	18	15:00～17:00	F	その他（6年生の陸上記録会の練習補助）	来られるときだけでもよい
小8	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年9月29日	1	1	1	6:30～17:00	B	校外学習の引率補助（6年生東京遠足）	昼食は持参願います
小9	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年10月4日	2	1	2	8:30～15:00	B	校外学習の引率補助（1・2年生の遠足）	昼食は持参願います
小10	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年10月5日	2	1	2	8:30～16:00	B	校外学習の引率補助（3・4年生の遠足）	昼食は持参願います

小11	城東小学校	村岡康秀教諭	平成23年11月27日	2	1	2	要相談	C	学校行事の補助（持久走大会における競技時の補助）	
小12	常磐小学校	小林幹夫教諭	平成24年2月中旬の3日間程度（要相談）	2	3	6	午前中（要相談）	A	授業における学習支援（3年生図工科におけるのこぎりの使い方の支援）	茨城大学教育学部（美術科、技術家庭科）の学生を希望
小13	常磐小学校	小林幹夫教諭	平成23年6月初旬～7月下旬までの間で5日間	3	5	15	月:10:30～12:00、火水金:8:30～15:30、木:8:30～12:00	A	授業における学習支援（1年生～6年生までの体育科、水泳指導における支援）	
小14	常磐小学校	小林幹夫教諭	平成23年9月下旬～10月17日（月曜日を除く）の間で3日間	6	3	18	15:00～17:00	F	その他（6年生の陸上記録会の練習補助）	陸上競技経験者
小15	常磐小学校	小林幹夫教諭	平成23年11月下旬～12月中旬までの間で5日間	2	5	10	午前中の可能な時間	A	授業における学習支援（5年生家庭科におけるミシンの使い方の支援）	茨城大学教育学部（家庭科）の学生を希望
小16	柳河小学校	添田弘道教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間（主として木曜日）で15日間	2	15	30	13:00～13:45	E	休み時間における児童生徒の遊び相手・相談相手（昼休み）	男性1人、女性1人を希望
小17	酒門小学校	佐川雅美教頭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で20日間（実施日は要相談）	2	20	40	8:30～15:30の都合のつく時間帯	D	特別な支援を要する児童生徒に対する個別支援（学習指導時の手伝いや休み時間の遊び相手）	アスペルガーや高機能自閉症児の学習や研究をしている学生、特別支援教育に興味がある学生を希望（一般学生でも可）
小18	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年10月14日	2	1	2	8:00～16:00	B	校外学習の引率補助（1年生遠足:県植物園）	
小19	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年10月14日	1	1	1	8:00～16:00	B	校外学習の引率補助（4年生遠足:県ミュージアムパーク）	
小20	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年10月21日	2	1	2	8:00～16:00	B	校外学習の引率補助（2年生遠足:アクアワールド大洗）	
小21	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年10月28日	1	1	1	8:00～16:00	B	校外学習の引率補助（3年生遠足:ひたちなか市交通公園等）	
小22	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年9月9日	3	1	3	14:00～17:00	C	学校行事の補助（運動会準備）	男性
小23	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年9月10日	3	1	3	8:00～16:00	C	学校行事の補助（運動会係員の補助）	
小24	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年6月3日	6	1	6	8:00～15:00	B	校外学習の引率補助（全校遠足「フレンドピクニック」）	雨天延期、千波湖周辺で異学年小集団でのウォークラリー
小25	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年11月22日	4	1	4	8:00～12:00	C	学校行事の補助（持久走大会における競技時の補助）	雨天延期、ケーズデンキスタジアム水戸で実施
小26	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年9月下旬～10月中旬の間で3日間（実施日は要相談）	6	3	18	14:00～16:00	F	その他（6年生の陸上記録会の練習補助）	
小27	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年6月中旬～7月上旬の間で5日間（実施日は要相談）	2	5	10	要相談	A	授業における学習支援（体育科、水泳指導における支援）	
小28	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で15日間（実施日は要相談）	2	15	30	8:30～10:30	A	授業における学習支援（主に低学年、国語科、算数科における個別指導）	
小29	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で15日間（実施日は要相談）	1	15	15	要相談	A	授業における学習支援（英会話学習における担任の補助）	スピーカーとしての役割や、モデルとしてのAETとの会話など
小30	河和田小学校	大高真澄教頭	平成23年10月の間で5日間（実施日は要相談）	1	5	5	要相談	A	授業における学習支援（図工科における絵画指導補助）	
小31	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年5月末の間で1日間	5	1	5	8:30～12:20	B	校外学習の引率補助（3年生社会科「学区探検」）	
小32	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年10月～11月の間で2日間	5	2	10	8:30～12:20	B	校外学習の引率補助（1年生生活科「秋をさがそう」、2年生生活科「町たんけん」）	
小33	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年5月下旬の間で1日間	3	1	3	8:30～12:20	B	校外学習の引率補助（4年生社会科「清掃工場・浄水場見学」）	
小34	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年9月下旬の間で1日間	3	1	3	8:30～12:20	B	校外学習の引率補助（4年生社会科「市立博物館見学」）	

小35	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年6月末の間で5日間	4	5	20	8:30 ~ 12:20	A	授業における学習支援 (2年生算数科「長さのたんい」)	30cmのものさしを使用して、長さを読んだり書いたりする活動の支援
小36	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年9月17日	2	1	2	8:30 ~ 16:00	C	学校行事の補助 (運動会における児童看護の支援・養護教諭の補助)	雨天順延、茨城大学教育学部 荻野薫さん、熊倉利恵さんを希望
小37	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年10月6日	3	1	3	8:00 ~ 16:00	B	校外学習の引率補助 (4年生遠足・大子町方面)	
小38	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年10月末～11月の間で5日間	4	5	20	8:30 ~ 12:20	A	授業における学習支援 (2年生算数科「かけざん」)	たし算・ひき算の定着を図る学習の支援、九九の学習の支援
小39	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年10月～11月の間で2日間	2	2	4	要相談	B	校外学習の引率補助 (5年生宿泊学習・水戸市少年自然の家)	
小40	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年10月～11月の間で3日間 (金曜日)	2	3	6	8:30 ~ 12:20	A	授業における学習支援 (1年生体育科「跳び箱・マット運動」)	
小41	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年11月24日	5	1	5	8:30 ~ 12:30	C	学校行事の補助 (持久走大会における競技時の補助)	逆川緑地公園で実施
小42	千波小学校	圓尾康子教諭	平成24年1月～2月の間で6日間 (実施日は要相談)	3	6	18	8:30 ~ 12:20	A	授業における学習支援 (1～3年生体育科「なわとび運動」)	月:2年生、火:3年生、金:1年生
小43	双葉台小学校	関義尚教諭	平成23年9月～平成24年2月までの間で3日間	2	3	6	要相談	B	校外学習の引率補助 (2年生・生活科)	男女どちらでも可
小44	双葉台小学校	関義尚教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で20日間 (実施日は要相談)	2	20	40	午前:都合のよい日、午後:火・水・木	D	特別な支援を要する児童生徒に対する個別支援	男女どちらでも可
小45	双葉台小学校	関義尚教諭	平成23年10月の間で4日間	4	4	16	家庭科学習時 (要相談)	A	授業における学習支援 (家庭科「ミシン操作の補助」)	女性を希望
小46	双葉台小学校	関義尚教諭	平成23年10月13日	4	1	4	8:00 ~ 16:00	B	校外学習の引率補助 (3年生遠足)	
小47	双葉台小学校	関義尚教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で10日間 (実施日は要相談)	4	10	40	要相談	A	授業における学習支援 (算数科習熟度別学習)	
小48	笠原小学校	小野瀬繁子教頭	平成23年6月～平成24年2月までの間で15日間	3	15	45	8:30 ~ 15:30 午前か午後の半日でも可	A	授業における学習支援	
小49	笠原小学校	小野瀬繁子教頭	平成23年10月初旬	6	1	6	9:00 ~ 12:00	A	授業における学習支援 (写生会補助)	
小50	赤塚小学校	秋葉泉教頭	平成23年6月4日	4	1	4	8:00 ~ 15:00	C	学校行事の補助 (運動会の準備、競技の補助等)	
小51	赤塚小学校	秋葉泉教頭	平成23年11月9日	3	1	3	9:00 ~ 11:00	C	学校行事の補助 (持久走大会における児童看護等)	
小52	赤塚小学校	秋葉泉教頭	平成23年11月19日	4	1	4	8:30 ~ 13:00	C	学校行事の補助 (赤小祭り)	祭りの準備・児童看護・後片付け等
小53	吉沢小学校	久保田由美子教頭	平成23年9月5日～10月19日までの間で5日間 (毎週金曜日)	3	5	15	13:30 ~ 15:50	F	その他 (6年生の陸上記録会の練習補助)	男女どちらでも可
小54	吉沢小学校	久保田由美子教頭	平成23年5月28日	3	1	3	8:30 ~ 15:00	C	学校行事の補助 (運動会の補助)	男女どちらでも可
小55	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で10日間 (火・水・金曜日、実施日は要相談)	6	10	60	16:00 ~ 17:30	F	その他 (金管バンドの指導支援)	各パートに1人以上の指導者を希望
小56	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成23年9月20日～10月13日までの間で6日間 (火・水・木曜日)	3	6	18	13:50 ~ 15:30	F	その他 (6年生の陸上記録会の練習補助)	
小57	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で15日間 (月曜日、実施日は要相談)	1	15	15	8:30 ~ 10:30	D	特別な支援を要する児童生徒に対する個別支援	
小58	堀原小学校	菊田聡子教諭	平成23年6月13日～7月8日までの間で10日間	2	5	10	要相談	A	授業における学習支援 (体育科、水泳指導における支援)	
小59	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成23年9月20日～10月19日までの間で10日間	2	10	20	15:30 ~ 16:30	F	その他 (6年生の陸上記録会の練習補助)	男女どちらでも可
小60	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成23年10月12日	2	1	2	8:30 ~ 15:00	B	校外学習の引率補助 (1・2年生遠足)	男女どちらでも可
小61	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成23年10月14日	2	1	2	8:30 ~ 15:00	B	校外学習の引率補助 (3・4年生遠足)	男女どちらでも可
小62	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で15日間 (実施日は要相談)	2	15	30	4時間程度 (要相談)	A	授業における学習支援 (理科、実験授業における支援)	男女どちらでも可
小63	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成23年9月17日	10	1	10	8:00 ~ 16:00	C	学校行事の補助 (「いなりの子体育大会 (運動会)」の補助)	雨天順延、昼食は学校で準備、男女どちらでも可

<中学校>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考
中2	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で10日間（週2回程度、実施日は要相談）	1	10	10	午前中	A 授業における学習支援（理科授業における支援）	
中3	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年5月下旬～10月までの間で10日間（土曜日、月に2～3回程度、実施日は要相談）	1	10	10	8:30～11:30	F その他（合唱部の指導補助）	
中4	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で10日間（週1回程度、実施日は要相談）	1	10	10	午前か午後のどちらか3時間程度	F その他（保健指導資料・掲示物などの作成、アンケート調査の集計処理）	
中5	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年6月～平成24年2月までの間で10日間（実施日は要相談）	2	10	20	午前中	A 授業における学習支援（家庭科授業における支援）	TTや実習の準備などの活動
中6	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年5月～12月までの間で10日間（週2日程度）	2	10	20	要相談	D 特別な支援を要する児童生徒に対する個別支援	
中7	第一中学校	高橋資明教諭	平成23年5月～12月までの間で10日間（週1日程度）	2	10	20	要相談	A 授業における学習支援（数学科授業における支援）	
中8	第三中学校	角谷直人教諭	平成23年9月6日～12月22日までの間で16日間（毎週火曜日）	2	16	32	8:20～15:20	A 授業における学習支援（1年生数学科授業における支援）	
中9	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年5月27日～7月15日までの間で8日間（毎週金曜日）	1	8	8	8:40～15:30	A 授業における学習支援（1年生国語科授業における支援）	主に漢字テスト添削の補助及び個別支援
中10	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年6月7日～7月19日までの間で7日間（毎週火曜日）	2	7	14	8:40～15:30	A 授業における学習支援（3年生数学科授業における支援）	主に練習問題支援
中11	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年6月27日～7月8日までの間で10日間	1	10	10	8:40～15:30	A 授業における学習支援（1年生理科授業における支援）	主に実験補助及び環境整備
中12	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年6月9日～7月14日、9月8日～29日までの間で10日間（毎週木曜日）	1	10	10	8:40～12:30	A 授業における学習支援（3年生理科授業における支援）	主に実験補助及び環境整備
中13	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年5月26日～7月14日までの間で8日間（毎週木曜日）	1	8	8	8:40～15:30	A 授業における学習支援（1年生英語科授業における支援）	主に英会話指導の補助
中14	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年5月25日～7月20日までの間で9日間（毎週水曜日）	1	9	9	8:40～15:30	A 授業における学習支援（1年生家庭科授業における支援）	主に調理実習等の実技指導補助
中15	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年6月6日～17日までの間で10日間	1	10	10	8:40～15:30	A 授業における学習支援（1～3年生音楽科授業における支援）	主にリコーダー等の指導補助
中16	第四中学校	高貴和夫教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で15日間（実施日は要相談）	1	15	15	8:40～12:30	A 授業における学習支援（数学科授業における支援）	TT
中17	第四中学校	高貴和夫教諭	平成23年5月下旬～平成24年2月までの間で15日間（実施日は要相談）	1	15	15	8:40～12:30	A 授業における学習支援（理科授業における支援）	TT及び実験の準備
中18	見川中学校	富永幸枝教諭	平成23年9月～10月までの間で5日間	5	5	25	要相談	A 授業における学習支援（家庭科授業における支援）	調理実習の補助
中19	見川中学校	山崎利幸教諭	平成23年9月の間で10日間	2	10	20	要相談	A 授業における学習支援（1年生音楽科授業における支援）	女性、合唱の授業における学習支援（ソプラノ、アルトパート）
中20	千波中学校	市毛豊教頭	平成23年6月～平成24年2月までの間で15日間（週1回程度、実施日は要相談）	3	15	45	要相談	A 授業における学習支援（数学科授業における支援）	

3. 後期分

<幼稚園>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間	支援を受けたい内容	備考
幼34	城東幼稚園	中村恵子教頭	平成23年11月1日	3	1	3	9:00～14:00	B 園外保育の引率補助（りんご狩り・秋の遠足）	男女どちらでも可、雨天の場合は11月4日に実施
幼35	千波幼稚園	仲根やい子教頭	平成23年10月中旬～平成24年2月までの間で10日間（実施日は要相談）	3	10	30	9:00～14:00 または 13:30～16:00	A 通常保育の補助	男女どちらでも可、園行事への支援も含む

幼36	酒門幼稚園	橋本祥子教頭	平成23年10月6日	2	1	2	8:00～14:30	B	園外保育の引率補助（水戸芸術館）	弁当持参、活動しやすい服装
幼37	酒門幼稚園	橋本祥子教頭	平成23年10月14日、22日	4	2	8	14日 8:00～11:30 22日 8:00～12:00	C	園行事の補助（14日 運動会予行、22日 運動会）	弁当持参（14日のみ）活動しやすい服装、帽子、名札
幼38	酒門幼稚園	橋本祥子教頭	平成23年11月9日	2	1	2	8:00～14:30	B	園外保育の引率補助（歴史館）	弁当持参、活動しやすい服装、雨天の場合は11月16日に実施
幼39	酒門幼稚園	橋本祥子教頭	平成23年12月15日	2	1	2	8:00～14:30	C	園行事の補助（もちつき）	活動しやすい服装、エプロン

<小学校>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間		支援を受けたい内容	備考
小64	新荘小学校	芦間登己司教諭	平成23年10月～平成24年2月までの間で木曜日・金曜日	3	10	30	9:30～12:20	D	特別な支援を要する児童生徒に対する個別支援（学習や教室移動の補助）	1年生の交流学級における学習支援（体育・図画工作）を含む
小65	寿小学校	栗原和彦教諭	平成23年12月3日	2	1	2	15:00～17:00	F	その他（学年・学級懇談時の児童看護）	男女どちらでも可
小66	寿小学校	栗原和彦教諭	平成24年2月24日	2	1	2	15:00～17:00	F	その他（学年・学級懇談時の児童看護）	男女どちらでも可
小67	千波小学校	圓尾康子教諭	平成23年10月12日、18日、25日	3	1	3	13:00～15:00	B	校外学習の引率補助（4年生総合的な学習の時間「高齢者介護施設見学」）	雨天延期、各日1人ずつ、同じ人が複数日担当してもよい
小68	笠原小学校	須貝裕子教諭	平成23年10月7日	5	1	5	午前または午後	F	その他（図書室の整理）	
小69	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年10月の間で8日間（毎週月曜日・木曜日）	1	8	8	13:00～15:00	A	授業における学習支援（4年生音楽科授業におけるリコーダー学習の支援）	男女どちらでも可
小70	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年11月10日	2	1	2	8:30～12:00	B	校外学習の引率補助（6年生「老人ホームとの交流活動」）	男女どちらでも可、雨天決行
小71	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年10月～平成24年2月までの間で10日間	3	10	30	12:00～15:30	D	特別な支援を要する児童生徒に対する個別支援（情緒障害特別支援学級の支援）	男女どちらでも可
小72	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年10月4日、5日	2	2	4	15:30～16:45	F	その他（6年生の陸上記録会の練習補助）	男女どちらでも可、陸上競技の経験者を歓迎します
小73	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年10月12日	2	1	2	8:00～16:45	B	校外学習の引率補助（6年生陸上記録会）	男女どちらでも可
小74	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年10月12日～28日の間で9日間（毎週水・木・金曜日）	2	9	18	10:30～13:00	A	授業における学習支援（1年生体育科授業におけるマット運動の支援）	男女どちらでも可、体を動かすことが好きな方を歓迎します
小75	赤塚小学校	芳尾信一郎教諭	平成23年11月8日、15日	4	2	8	9:00～12:00	B	校外学習の引率補助（2年生生活科「まちたんけん」）	男女どちらでも可、雨天延期、グループごとに徒歩で探検

<中学校>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	延べ日数	時間		支援を受けたい内容	備考
中21	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年10月6日～12月15日までの間で10日間（毎週木曜日）	1	10	10	8:40～12:30	A	授業における学習支援（3年生数学科授業における支援）	主に練習問題補助
中22	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年10月3日～12月16日までの間で10日間	1	10	10	8:40～15:30	A	授業における学習支援（1年生理科授業における支援）	主に実験補助及び環境整備
中23	緑岡中学校	鴨志田泰教諭	平成23年10月4日～12月6日までの間で10日間（毎週火曜日）	1	10	10	8:40～14:30	A	授業における学習支援（3年生理科授業における支援）	主に実験補助及び環境整備
中24	見川中学校	富永幸枝教諭	平成23年9月12日～16日、10月17日～21日	3	10	30	要相談	A	授業における学習支援（家庭科授業における支援）	調理実習の補助
中25	内原中学校	吉川明宏教頭	平成23年10月24日～平成24年2月末までの間で15日間（週1回程度、実施日は要相談）	2	5	10	15:00～17:00	F	その他（理科室の整理、ガラス器具等の洗浄、薬品の計量などの教材・器材準備の補助）	

県内教育支援ボランティア募集一覧

No.	ボランティア名	募集先	活動日 応募〆切	募集人数	備考
1	附属小学校復旧手伝い	附属小学校	4/1~4月末 活動終了		学校再開に向けての校舎内の片付け・清掃 21名参加
2	個別学習支援	ひたちなか市立市毛小学校	平成23年5月~ 平成23年9月	10名程度	定員になり次第締め切り 1名
3	個別学習支援	ひたちなか市立勝田第三 中学校	平成23年5月~ 平成23年6月	10名程度	定員になり次第締め切り 1名
4	水戸少年少女発明クラブ	水戸少年少女発明クラブ 事務局	5/21~2/11	2名	数人で分担して活動可 7名
5	体育授業サポーター派遣事業	茨城県教育庁保健体育課	7/1~H.24.2/24		保健体育教室吉野先生 取りまとめ
6	学童保育合宿引率	赤塚みなみ保育園	7/2~3 5/10〆切	1名 (女子)	参加者の活動支援 園の都合により取りやめ
7	はが路100km徒歩の旅学生スタッフ	はが路100km徒歩の旅 実行委員会	8/6~10		児童の歩行のサポート ・生活支援
8	水戸養護学校ボランティアスクール	茨城県立水戸養護学校 PTA	6/25・8/12・10/1・11 /5・12/10(〆切6/6)	定員50名	6名
9	小美玉市陸上記録会記録測定補助員	小美玉市立小川小学校	5/25(雨天時5 /26)・〆切5/18	6名	ボールスロー・走り幅跳 びなど 2名
10	スタディサポーター(1)・学習支援員(2)	茨城県立東海高校		(1)・(2) 同 一人でも可	(1)数学科 (2)数学科・国語科
11	高校生基礎学力向上サポートプラン	茨城県教育委員会	平成23年5月~ 平成24年3月		学務課学務企画第1係 10名程度申込あり
12	運動会支援	水戸市立渡里小学校	平成23年6月4日 (雨天順延)	10名	8名
13	学習支援	水戸市渡里小学校	平成23年5月9日 ~7月8日	12名(各学 年2~3名)	授業へのT・T的支援 特別支援児童への支援 5名
14	附属小給食支援	附属小学校	平成23年4月14日 ~7月20日	1日2~3名	給食の準備・片付け補助・給 食コンテナの運搬等 14名
15	運動会支援	大洗町立大貫小学校	平成23年5月28日 〆切5月24日	3名 男女不問	運動会での活動支援 (雨天順延)
16	附属小特別教室整備	附属小学校	平成23年5月23日	10名程度	机・イスの移動等 13名
17	図書館整備	ひたちなか市立大島中学校	平成23年5月21日		書架の移動・図書の 移動 2名
18	管理棟の整備・荷物の移動	城里町立常北中学校	8/24~26		荷物の整理・移動補助 5名
19	パソコン室整備	水戸市立堀原小学校	平成23年5月20日 5/10〆切		パソコン室の片付け・ 清掃 4名
20	久慈の杜100km徒歩の旅学生スタッフ	常陸太田市青年会議所	8/7~8/11		児童の歩行のサポート ・生活支援
21	本の整理と破棄	水戸市立緑岡中学校	5/16~5/27		5名(3名活動実施)
22	附属中学校宿泊学習支援	附属中学校	7/12~16	各学年2名 (計6名)	各学年養護1名・登山 養護2名 5名
23	ボランティア教室	茨城県立勝田養護学校	6/18・8/6・10/8 11/2・12/17〆5/27	学生20名	1名
24	「学びの広場サポートプラン」サポーター	水戸市立城東小学校	平成23年8月1日 ~5日		算数の学習サポート (小4~6)1名
25	水戸市障害者ジョギング教室支援	水戸市障害福祉課	平成23年5月~平成		ケーズデンキスタジアム 水戸にて
26	水戸市障害者グループ外出奉仕員	水戸市障害福祉課	6/4・11・18・25 7/2締切 5/27	20名	講座修了後、奉仕員と して登録
27	「学びの広場サポートプラン」サポーター	水戸市立下大野小学校	7/21・22・25・ 28・29 〆切6/3	1名 男女不問	小学4年生の算数の 指導補助
28	「学びの広場サポートプラン」サポーター	水戸市立河和田小学校	7/21~27 ※土・日を除く	2名	小学4年生の算数個別 支援 1名

29	運動会支援	水戸市立堀原小学校	5月28日(土)	何名でも可	1名
30	「学びの広場サポートプラン」サポーター	水戸市立渡里小学校	7月25日～29日 6月17日締切	3名	小学4年生の算数の学習支援
31	友養サポーター	茨城県立友部養護学校	6月～8月		作業学習補助・体育測定補助・プール学習補助 1名
32	ボランティア講座	日立市立日立養護学校	7/16・8/21・9/24 11/12・12/10・2/4	20名 締切6/24	6回とも参加できる方
33	ボランティア養成講座	茨城県立水戸飯富養護学校	平成23年7月～平成24年2月		開講式7/17 閉講式12/18 6名
34	附属小学校スクールサポーター(音楽)	附属小学校	平成23年6月8日・15日		音楽の授業(鑑賞)での演奏 3名
35	小学生陸上記録会・継走大会ボランティア	水戸市小学校体育連盟	10月11日～20日 5ブロック	各ブロック 10名程度	小学生の陸上種目の計測・審判、競技進行の支援
36	保育補助	赤塚みなみ保育園	随時	1～2名	保育及び付帯業務
37	歴史館ボランティア	茨城県立歴史館	随時募集		イベント・体験活動支援 広報活動支援 1名
38	学習支援(夏休み)	水戸市立堀原小学校	7月21・22・25・27・28日(5日間)	5～10名	小学5・6年生の算数の学習支援 2名
39	療育キャンプ活動支援	茨城県ことばを育む親の会	平成23年8月20日 21日	5～6名 男女	療育キャンプに参加する児童・生徒の活動支援1名
40	コミュニティルーム学習支援	浜田小コミュニティルーム	平成23年9月5日～平成24年3月31日		週1回程度 小4～6年生の学習支援・交流1名
41	夕涼みボランティア	附属幼稚園	平成23年7月19日	10名 男女不問	夕涼み会の準備及び夜店等の担当4名
42	学童クラブ活動補助・水戸黄門まつり	わかな保育園 わかな学童クラブ	H23・7・21～8・31 H23・8・6	2名 多数	夏休みの学童保育・黄門まつりお手伝い
43	ちびっ子広場ボランティア	水戸青年会議所	平成23年7月24日	20名	ペットボトルキャップアートの作成 ペットボトルいかに作成
44	べるびー水戸納涼会ボランティア	べるびー水戸	平成23年8月7日		
45	学習支援(夏休み)	小美玉市立玉里中学校	平成23年8月22日～26日 〃切8/15	2名	5教科の復習の支援 2名
46	常陸秋そばの郷まもりたいプロジェクト	常陸秋そばの郷まもりたい	平成23年8月6日	10名	常陸秋そばの種まき 1名
47	石岡市園部中学校英語ボランティア	水戸生涯学習センター	平成23年7月21・22・25日締切7月14日		夏休み学習相談・補習 英語の斎藤先生に依頼
48	学習相談(個別学習)の補助	常陸太田市峰山中学校	H23年7月21日～8月26日(締切7月19日)	各コマ 1～3人程度	個別学習の補助 2名
49	保育補助	茨城ブロック協議会	平成23年8月22日 締切 8月10日	2～3名	親学推進セミナー内託児所における保育補助2名
50	いわてGINGA-NETプロジェクト	いわてGINGA-NETプロジェクト実行委員会	平成23年7月26日～9月27日		
51	「租税教育活動」学生ボランティア	水戸法人会	平成23年7月24日 締切7月20日		イベント活動補助
52	保育補助	赤塚みなみ保育園	平成23年7月22日～8月26日	1名	幼児の保育及び付帯業務(毎週火・金曜日)1名
53	いばらきユースプロジェクト	財団法人 茨城青少年協会	委嘱の日から 平成24年3月31日	15名	
54	「田舎で働き隊！」研修生	特定非営利活動法人NICE(日本国際ワークキャンプセンター)	平成23年7月～24年3月の内6ヶ月以上	全国11カ所	地域づくり、農林業・環境保全に取り組むたい方
55	農業ボランティアツアー	ECOFF			鹿児島県トカラ列島で農業体験ツアーに参加
56	運動会支援	茨城町立川根小学校	平成23年9月17日	男2名 女4名	警備 児童看護・救護補助4名
57	学習支援	水戸市立浜田小学校	平成23年9月5日～平成24年3月31日		週1回程度、小学4～6年生を対象に学習支援
58	茨城県知的障害養護学校体育連盟スポーツ大会ボランティア	茨城県知的障害養護学校体育連盟	平成23年11月10日	35名程度	競技役員の補助

59	いばらき若者塾	茨城県青少年協会	募集期間 7/22～8/20	10名程度	明日の茨城を担う青年 リーダーを養成する
60	緑のふるさと協力隊	地球緑化センター			
61	学習指導	児童養護施設若草園	平成23年9月1日～ 平成24年3月31日	2名	小学5・6年生を対象 学習指導2名
62	子どもホットラインサポートスタッフ	茨城県教育委員会	志願書〆切 10月31日	20名程度	登録・活動開始時期は 平成24年4月下旬以降
63	友養サポーター	茨城県立友部養護学校	9月～10月		高等部作業学習補助 中学部作業学習補助2名
64	ヤングコール電話相談事業ボランティア	(社)いばらき思春期保健 協会	活動開始H24.3.17～ 〆切10/10	20名程度	養成期間H23.10/15～ 2012/3/10 4名
65	個別学習支援	水戸市立稲荷第一小学校	平成23年10月3日～ 平成24年3月16日	男2名 女2名	つまづいている児童への 個別支援1名
66	インフォラータ(花の絨毯)制作	国営ひたち海浜公園 管理センター	平成23年10月15日 〆切9月30日	男5名 女5名	ひたち海浜公園20周年 記念行事
67	通常授業支援・特別支援	水戸市立渡里小学校	平成23年10月3日～ 12月9日		T・T 10名 特別支援2名
68	渡里元気村活動支援	水戸市立渡里小学校PTA	平成23年11月12日 〆切10月14日	30名	遊びのコーナー活動補助
69	傾聴ボランティア養成講座&体験会	(財)茨城県青少年協会	平成23年11月3日 ・5日	先着40名	若者ボランティア・地域 活動支援事業
70	放課後の学校クラブプロジェクト	放課後の学校クラブ 実行委員会	平成23年10月8日～ 12月	制限なし	活動場所 水戸市立浜田 小学校コミュニティルーム
71	学習支援	小美玉市立玉里中学校	平成23年10月5日～ 平成24年3月23日	1名	水曜日と金曜日
72	JICA 茨城大学訪問	JICA筑波	平成23年1月10日		意見交換・フリーディス カッション 6名
73	常陸そばの収穫と田舎料理を味わう	鈴木定夫	平成23年11月19日	10～15名	そばの収穫体験 1名
74	校内持久走大会支援	水戸市立渡里小学校	平成23年11月26日	5名	雨天の場合 11月30日 6名
75	視覚障害者支援コンサートスタッフ	茨城県視覚障害者の生活 と権利を守る会	平成24年1月15日	3名 男女不問	視覚障害者スタッフの誘導 ・準備や受付など 3名
76	個別生徒支援	水戸市立石川中学校	平成23年10月～ 平成24年3月	女子1名	生徒と一緒にスポーツ、掃除を したり学習支援をする。1名
77	あたご学校支援ボランティア養成講座	水戸生涯学習センター	平成23年11月5日～ 平成24年2月(全10回)	20名	学校教育活動全般の支援 を目的とした養成講座
78	放課後学習支援	笠間市立友部中学校	平成23年11月～ 平成24年1月		1名
79	校内持久走大会補助員	水戸市立城東小学校	平成23年11月27日 (雨天時11/29)		持久走大会の運営補助 6名
80	英会話ボランティア	水戸市立新荘小学校			隔週水曜日8:20～8:35 3名
81	夜間生活指導補助職員(非常勤嘱託)	茨城県立茨城学園	平成23年12月～平成24年 3月31日(更新可能)	男子10名 女子若干名	生活指導(掃除・食事・入浴、 就寝、起床等)の補助2名
82	水戸キャンパス周辺清掃ボランティア	茨城大学	平成23年12月4日		地域一斉清掃
83	大学生サポーター	茨城県警察少年サポート センター	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	15名程度	少年の非行防止と立ち 直り支援活動 2名
84	授業支援・特別支援	水戸市立渡里小学校	平成24年1月16日～ 平成24年3月16日	10名以上	授業でのTT的支援13名 特別支援児童への支援5名
85	若者に関わる人たちのための全国フォーラム	(独)国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家	2012年1月7日・8日		
86	夜梅祭ボランティア	社団法人水戸青年会議所	平成24年3月3日		
87	友養サポーター	茨城県立友部養護学校	1月～3月		作業学習補助(中等部・高等 部)授業補助(小学部)1名
88	保育補助	赤塚みなみ保育園	平成24年3月5日～ 4月2日(毎週月曜日)	女子1名	幼児保育・付帯業務の補助 1名
89	学習指導補助	附属小学校	平成24年3月9日～ 3月30日	1名	児童への学習指導補助 ・事務処理補助
					216名

附属学校園と教育学部の連携研究

連携研究を推進する体制

附属学校園と教育学部の連携が求められています。茨城大学教育学部は2003年より附属学校委員会を設置し、附属学校園と教育学部の情報交換と連携に努めてきました。2010年9月に教育学部研究連携推進委員会を立ち上げ、連携研究の体制を整備しています。

ここでは、連携研究を推進するための研究補助制度「実践センター・学部附属連携研究補助金」、連携研究の把握、附属学校フォーラムの開催について報告します。

1、「実践センター・学部附属連携研究補助金」制度と採択リスト

今年度も、附属学校と教育学部の教員の連携を促進するために「実践センター・学部附属連携研究費補助金」の公募を行いました。期間1年間、補助する金額は1件5万円、4件というわずかな額ですが、12件の応募がありました。教育研究連携推進委員会で審査した結果、以下の6件が採択されました（順不同）。センター予算を超えた分は、尾崎久記教育学部長に学部長裁量経費により補填していただいています。

来年度は、審査を附属学校で行い、附属学校の委員で決めることにしています。学部中心になることを防ぐためと研究代表に附属学校の教員になることを促進するためです。来年度にどのような研究が出てくるか楽しみです。

2011年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
田中 健次	附属小学校	音楽教育 田中健次 附属小 桔梗谷美代子・木野内喜久恵 濱田稔子	地域の伝承音楽学習に関する実践事例の収集と公立学校への提供
齋藤 芳徳	附属中学校	情報教育 岩佐 淳一・佐々木忠之 附属中 小泉晋弥・益子道夫・矢崎寛子	学部附属中学校キャリア教育支援 - インターネットによるOB・OGの職業紹介 -
猪井 新一	附属中学校	英語教育 猪井新一・齋藤英敏 附属中 小沢 浩・澤畑珠美・齋藤崇	英語コミュニケーション能力を高めるための指導方法の研究
山本 勝博	附属中学校	理科教育 山本勝博 附属中 船山知暁・久保鉄平	カイコの飼育を通じた昆虫の完全変態の観察と生命の不思議さを実感できる教材開発
寺本 輝正	附属中学校 附属小学校	附属小 住谷浩 附属中 高橋文子 美術教育 島 剛 寺本輝正	図画工作教育及び美術教育における素材を生かす教材の開発と実践
村野井 均	4 附属学校	附属幼 寺門南・太田加代 附属小 野村知弘・大津崇・高木輝夫 附属中 佐藤宗夫 附属特別支援 田澤裕之・齋藤あすか・櫻井幸子・内田清香	附属学校と連携した教職科目用教科書『教師を目指す人のための発達心理学』の作成

2、連携研究の把握

茨城大学教育学部では、附属学校園と学部との連携研究が活発に行われています。2011年度は72件の連携研究を行っています。

右の図は、2012年2月に行われた第1回附属学校フォーラムで、配布された資料「教員養成大学・学部の改革と附属学校園の役割 文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室」より、「大学・学部の教育研究への協力」(p.99)、「大学・学部と附属学校の共同研究」(p.100)の部分抜き出しました。

・大学・学部の教育研究への協力

大学教員の研究に対する附属学校の協力状況とは、大学・学部教員が研究の一環として行う調査や実験授業などに、附属学校が協力した件数のことです。年間10件以上協力しているのは9%しかあ

りません。茨城大学はここに入ります。全国では、年間1～3件しか協力していないところが50%を占めています。

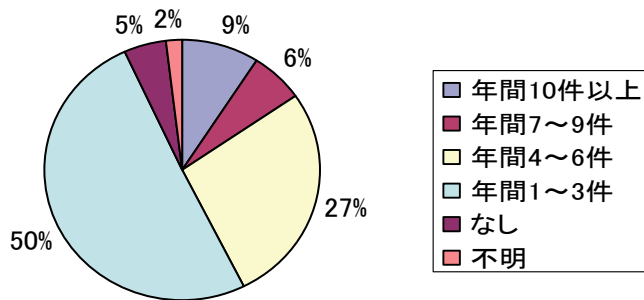


図 大学教員の研究に対する附属学校の協力状況

・大学・学部と附属学校の共同研究

大学・学部と附属学校の共同研究を年間10件以上行っている国立大学は13%しかありません。年間1～3件が47%という数字になっています。

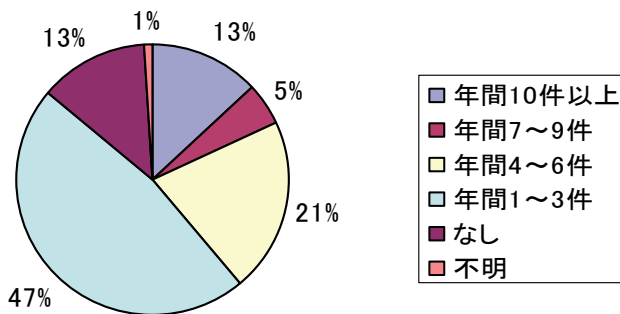


図 共同研究プロジェクト数

茨城大学教育学部は、2011年度に72件の連携研究を行っています。

昨年度の76件には及びませんが、今年は、東日本大震災があり、大学も附属学校園も大きな被害を受けました。特に附属小学校は、大きな被害を受けたため、春の教育実習も行えず、仮設教室で授業を行いました。

大学では新生の講義開始が1か月遅れ、現在もあちこちの建物で、改修工事が行われています。

このような状況で、72件の連携研究

が行われたわけですから、きわめて活発に連携研究を行っているといえます。

学部・附属学校園の連携届一覧は28～31ページへ示します。

3、附属学校フォーラムの開催

第1回附属学校フォーラム「地域のモデル校としての附属学校 —大学・学部との連携を踏まえて—」を2012年2月10日に行いました。教育学部附属学校委員会と教育学部研究連携推進委員会、教育実践総合センターの3者が協力して開催しました。

詳細は44～46ページに示します。

平成23年度 学部・附属学校の連携の届け一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	大辻 永 理科教育	研究	小	水質調査に対する教師の意識調査 子どもの水質調査活動についてインタビュー	8/17	附属小 栗原裕弥
2	川嶋秀之 国語教育	授業協力	小	クラブ活動「昔遊び班」にてペーゴマ についての指導及び歴史の紹介等	9/27	国語教育5名
3	吉野 聡	研究	小	研究論文作成のためのデータ収集 情報揭示別による運動経過把握に 及ぼす影響を検討する	10/13	保健体育4名
					11/24・25 12/1	保健体育9名・健康コース1名
					12/12	保健体育4名
4	斉藤 ふくみ 教育保健	卒業研究	小	保健室への曖昧来室者の分析 参与観察法による動線記録・音声記録	10/13～31	養護教諭4年1名
5	金子 一夫 美術教育	授業見学 (図工科)	小	「美術教育授業研究Ⅰ」美術教員を 目指す意識向上と授業研究	11/10	甲斐教行 美術教育1年13名 附属小 住谷浩・2年2組
6	吉野 聡 保健体育教育	研究 (修論研究)	中	ハンドボールの授業研究(データ収集) 参与観察日誌、	11/29～	教育学研究科2名
					12/22	保健体育4名/健康コース1名
7	大辻 永 理科教育	研究 (卒論研究)	小	環境・理科教育の教材化にむけて教員への インタビュー(単元内容・子どもの反応について)	12/1	理科教育1名
8	ジョイス・カミンガム 人文学部	研究 (卒論研究)	小	卒業研究のための授業見学・インタビュー アンケートなど	11/29～	人文学部人コミ2名
					12/9	
9	齋藤 英敏 英語教育	研究	中	中学英語授業における相互評価の効果についての研究 形成的評価が学習に影響するかどうか	4/1～H24 6/30	附中 齋藤 崇
	齋藤 崇 附属中学校	研究 授業実践	中	中学生の英語の授業における相互評価 の効果についての研究	6/1～2/22	英語教育 齋藤英敏 附中 齋藤崇
10	猪井 新一 英語教育	研究	中	英語コミュニケーション能力向上の ための具体的方策の協議、実践	4/1～H24 3/31	齋藤英敏・猪井新一 附中 齋藤崇・小沢浩・澤畑珠美
11	齋藤 芳徳 情報文化	教育支援	中	附属中学校キャリア教育支援 インターネットによるOB・OGの職業紹介	H23/5～	岩佐淳一・佐々木忠之・齋藤芳徳 附中 小泉晋弥・益子道夫・矢崎寛子
12	日下 裕弘 保健体育	その他 実践活動	小	子どもの自然遊び 合宿体験活動	12/24～	日下ゼミ(子どもの遊び研究会)学生
					12/25	附属小児童(4～6年生)24名
13	根本 博 数学教育	研究	中	授業づくり研究会 指導資料の作成、研究授業 の実施、研究成果を教育機関に提供する	H20/12/1～ H24/3/31まで	小口祐一 附属中 宇陀定司 佐藤宗夫・菊池康浩
14	渡邊 将司 保健体育	研究	中	エネルギー消費量・身体活動状況などについての 追跡調査 身体活動量の調査・持久力・筋力の調査	H23/12中旬 ～H24/1	引原有輝(千葉工大工学部助教) 附中生(昨年度40名)
15	橋浦 洋志 国語教育	授業実践	小	「ことばの力」実践演習 ことばの在り方 について実践を通して考察する	2/16	学校教員養成課程・養護教諭 養成課程2年生全員
16	齋木 久美 情報教育	研究 実態調査	幼	幼児の姿勢の実態把握とその改善方法 の研究	H23/10～	保健体育 渡邊・特別支援 勝二
					H24/3/31まで	情報文化 齋藤・齋木・附幼全教員
17	齋木 久美 情報文化	研究 授業実践	中	中学校書写の学習指導法に関する研究 配置の学習に履歴書を用い、効果を検証	H23/11～	情報文化 齋木
					H24/3	附属中 矢崎寛子
18	野崎 英明 技術教育	研究	中	大学院修了研究開発した教材の効果検証 教材使用前・後の授業内容理解度の変化	1/12・16・	附属中 萩谷 大学院生1名
					1/18	技術4～8名 附属中1年生
19	大内 善一 国語教育	研究	中	授業づくり研究会 公開研究会での公開授業の作成	6/28・8/1	附属中教員3名
					9/13・10/25	

20	開田 晃央 附属中学校	実態調査 研究	小 中	「聞くこと」における児童生徒の意識についての調査研究「聞くこと」アンケートの作成	8/30・9/30 11/25・1/17	附中教員 1名 附小教員1名 公立学校教員6名
	橋浦 洋志 国語教育	調査	小 中	義務教育における学習活動の基礎としての「聞く力」の育成 アンケート調査	H24/2~ 3	附属小 野村(仁) 附属中 開田
21	田中 正彦 附属中学校	その他	中	宿泊共同学習ボランティア 登山・養護等のボランティア	7/12~ 7/16	教育学部生3名 大学院生2名
22	田中 正彦 附属中学校	授業実践 (参観)	中	学生の講義の一環として社会科の モデル授業の参観	1/18	社会教育1年生 25名 担当 村山 朝子
23	高橋 文子 附属中学校	指導	大学	バターナイフの制作・実践のための情報交換 材料や用具・授業実践について検討する	10/22	美術教育 寺本輝正
24	高橋 文子 附属中学校	研究	中	授業づくり研究会 授業実践の問題点を助言・ 協議により、よりよい授業づくりをめざす	5/8・7/21 10/1・1/21	美術教育 小泉晋弥・金子一夫 公立学校教員5~6名
25	高橋 文子 附属中学校	授業実践	中	美術教育実践演習 学部1年生が 授業実践を参観	7/6	美術教育1年生 13名
26	岡部 正徳 附属中学校	その他 PTA講演会	中	講演会 放射線や放射性物質に関する 理解を深める	12/8	田内 広(理学部教授)附中教員10名 附中保護者60名 附小保護者40名
27	岡部 正徳 附属中学校	その他 研修会	中	研修会 東日本大震災後の「心のケア」に ついての職員の意識を高める	4/25	学校臨床 金丸 隆太 附中教員24名 附小教員1名
28	岡部 正徳 附属中学校	その他 研修会	中	研修会 不登校生徒への支援・対策 不登校生徒への支援対策委員会の開催	7/4・12/16 3月にも開催予定	教育実践センター 正保 春彦 附中教員10名
29	長谷川 秀子 附属中学校	実態調査	中	修士論文作成にあたっての調査協力「アレルギー 疾患の児童生徒への養護教諭の対応について」	6/22	教育保健 竹下誠一郎・石原研治 附中長谷川・養教専修1名
30	長谷川 秀子 附属中学校	実態調査	中	卒論作成にあたっての調査協力「東日本大 震災時の養護教諭の活動に関する研究」	10/11	教育保健 石原研治 附中 長谷川 養教4年1名
31	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	PTA広報紙への寄稿「震災後の子ども たちの心のケア」	7/20発行	学校臨床 金丸 隆太
32	久保 鉄平 附属中学校	授業実践	中	「総合的な学習の時間」で行う「附中 科学の祭典」の実験補助・準備	2/2~16	理科教育 山本勝博 学生 附属中生160名 附中教員8名
33	久保 鉄平 附属中学校	授業実践	中	「総合的な学習の時間」の外部講師 ピオトープグループへの講義	1月12日	理科教育大学院生7名 附中生徒12名 附中教員1名
34	小沼 信行 附属中学校	その他	中	地域交流集会における科学実験講座 「食塩の結晶・ミョウバンの結晶」	H24.10.4	理科教育 山本勝博 附中生徒30名 附中教員1名
35	船山 知暁 附属中学校	授業実践	中	卒業研究にて開発した教材の効果検証 レゴを使った科学的表現力を高める理科授業	4/11~ 4/22まで	理科教育 山本勝博 附中1学年生徒157名
36	船山 知暁 附属中学校	授業実践	中	理科教材の開発 カイコを用いたメンデルの法則の教材開発	6/20~ 2/20まで	理科教育 山本勝博 附属中3学年生徒39名
37	川又 祥子 附属中学校		大学	大学と附属学校との共同研究のあり方について 新学習指導要領の研修	7/20	家政教育 山本・佐藤・西川・木村 数井・乾 附小 中山 附中 川又
38	菊地 耕 附属中学校	授業実践 卒業研究	中	卒論作成のために器械運動における判断力の調査 器械運動(鉄棒)の動きを見て質問に答える	11/29~ 12/22まで	保健体育 吉野 附中 菊地 附中2学年159名
39	萩谷 正教 附属中学校	研究	中	授業づくり研究 生分解性プラスチック を利用した教材の作成	7/27・8/19 9/20・10/8	技術教育 野崎 英明
40	萩谷 正教 附属中学校	研究	中	平成23年度 教育研究協議会 公開授業研究会に向けての事前指導	10/3	教育学部 村山 木村(勝) 小口 野崎 佐藤 猪井 小川 大内 山本 金子 巽 杉本

41	萩谷 正教 附属中学校	研究	中	平成23年度第1回公開授業研究会共同研究者 社会・数学・技術・家庭・外国語・総合的な学習の時間	10/18	村山 木村(勝) 小口 野崎 佐藤 猪井 小川
42	萩谷 正教 附属中学校	研究	中	平成23年度第2回公開授業研究会共同研究者 国語・理科・音楽・美術・保体・道徳・特別活動	11/8	大内・山本・田中・金子・巽 生越・杉本
43	萩谷 正教 附属中学校	研究 卒業研究	中	卒業研究にて開発した教材の効果検証「機械 分野におけるエアエンジンを用いた模型制作」	8/22・23	技術教育 安田 ゼミ生5名 附中パソコン部生徒7名
44	萩谷 正教 附属中学校	研究	中	夏期校内職員研修「教育課程にお ける指導と評価」についての研修	8/10	数学教育 根本 附属中教員24名
45	矢島 裕介 附属幼稚園	授業実践 研究	幼	柔道体験 柔道を通して日本の伝統 文化や礼儀作法を学ぶ機会とする	5/23～6/27 (全5回)	保健体育 尾形 敬史 附幼 笹嶋・西野・小林
46	矢島 裕介 附属幼稚園	授業実践 講師	幼	親子レク(草木染め) 自然の草木を 煮詰めたもので布を染める体験をする	H24.5.16	理科 山本勝博 附幼教員 附幼 年長組とその保護者
47	矢島 裕介 附属幼稚園	講演会 講師	幼	「子育て講座」講師 「子育ては親育ち～「こころね」を通して～」	H24.1.16	講師 岡部千草(実践センター) 附幼保護者
48	野村 仁 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	国語教育 橋浦洋志 昌子佳弘 附小国語科
49	大島 利則 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	社会教育 木村勝彦 村山朝子 附小社会科
50	根本 博 数学教育	授業実践	小 中	算数・数学科教育に関する指導方法の改善 公開授業研究会の為の指導案の検討	H23/4～ H24/3	根本博 小口祐一 附小算数科 教員3名附中数学科教員3名
	藤井 とし子 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	算数教育 根本博 小口祐一 附小算数科
51	石川 豊 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	理科教育 山本勝博 大辻永 附小理科
52	濱田 稔子 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	音楽教育 藤田文子 附小音楽科
53	住谷 浩 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	美術教育 向野康江 附小図工科
54	中山 香理 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	家政教育 佐藤裕紀子 附小家庭科
55	日下 裕弘 保健体育	研究 授業実践	小	公開授業研究会 ゴール型ボールゲームの研究	2/3	日下裕弘 附小 野村知弘
	野村 知弘 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	保健体育 日下裕弘 附小体育科
56	木野内喜久恵 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	学校教育 生越達 附小こころ
57	比佐 中 附属小学校	研究	小	公開研究会の学習指導案検討 研究アドバイザー	2/3	英語教育 猪井新一 附小Eタイム
58	佐藤 裕紀子 家政教育	研究	小 中	小・中5年間を見通した家庭科・技術家庭科 (家庭分野)のカリキュラムの作成	H24/3～ H25/3まで	家政教育 佐藤 裕紀子 附小 白井・中山 附中 川又
59	高良 和麻 理工学研究科	授業見学	小	授業見学 算数科指導方法等	2/15	大学院理工学研究科
60	松坂 晃 附属特別支援学校	研究	特	公開授業研究会「特別支援学校の 教科指導(国語)における授業づく り」	H23.4.1～ H23.7.22	松村多美恵・東條吉邦・勝二博亮(障) 本校教員30名
61	松坂 晃 附属特別支援学校	研究	特	公開研究会「特別支援教育(知的障 害)におけるキャリア教育の在り方」	H23.4.1～ H24.3.31	東條吉邦・荒川智・新井英靖(障) 本校教員30名

62	松坂 晃 附属特別支援学校	公開講座	特	検査法研修講座「心理検査法 田中ビネーV」	H23.8.3 H23.8.26	松村多美恵(障害児教育) 本校教員5名
63	松坂 晃 附属特別支援学校	公開講座	特	教材・教具開発講座「伝え合う力を育てる教材・教具の工夫」	H23.8.11	新井英靖(障害児教育) 本校教員30名
64	松坂 晃 附属特別支援学校	公開講座	特	自立活動講座「ムーブメントについて」	H23.8.29 H23.8.30	新井英靖(障害児教育) 本校教員5名
65	勝二 博亮 障害児教育教室	研究	特	知的障害児における基本運動の発達過程	H23.12.19～ H24.2.15	特別専攻科1名 小学部教員10名
66	勝二 博亮 障害児教育教室	研究	特	文章読解に関わる認知機能の発達科学的研究	H23.11.19～ H24.2.15	大学院教育学研究科1名 高等部教員3名
67	松坂 晃 附属特別支援学校	実態調査	特	交流および共同学習の実施状況とインクルージョンに関する調査研究	H23.11.17～ H24.2.15	養護教諭1名, 小学部教員1名, 中学部教員1名, 養護教諭養成 課程4年1名
68	日下裕弘 保健体育教室	実態調査	特	特別支援教育とA.マズローの人間観に関する研究	H23.11.8～ H24.2.15	中学部教員1名, 人間環境教育 4年1名
69	新井 英靖 障害児教育教室	研究	特	小学部におけるキャリア教育に関する実践的研究	H23.9.12～ H24.2.15	小学部教員10名 特別専攻科1名
70	勝二 博亮 障害児教育教室	研究	特	自閉性障害児のパニック行動に関する調査	H23.6.14～ H24.2.15	小学部教員3名 特別専攻科1名
71	松坂 晃 附属特別支援学校	実態調査	特	養護教諭養成機関における特別支援教育の内容に関する調査研究	H23.8.22～	養護教諭1名, 小学部教員1名, 中 学部教員1名, 大学院教育学研究科 1名
72	尾形 敬史 保健体育教室	授業実践	特	特別支援学校中学部における柔道指導に関する一考察	H23.7.28～ H24.2.15	中学部教員7名 人間環境教育4年3名

2011年度茨城大学教育学部の公開講座

今年度は東日本大震災のため、公開講座の予定が一旦キャンセルされましたが、その後関係者のご配慮・ご協力により、以下の講座を開講することができました。

講座名	講師	開催日	募集・受講 人数
グループワークで学ぶ カウンセリング講座	正保春彦	8/22(月)、8/23(火)	一般市民 20名 受講生 10名
実践心理教育相談講座 (初級編)	正保春彦、生越達 新井英靖、三輪壽二 丸山広人、守屋英子 東條吉邦、岸良範 金丸隆太 他学外講師1名	10/1(土)、10/8(土) 10/15(土)、10/22(土) 10/23(日)	一般市民 50名 受講生 34名
教育と臨床に生かす インプロビゼーション	正保春彦、他学外講 師1名	10/29(土)、10/30(日)	一般市民 20名 受講生 21名
実践心理教育相談講座 (中級編)	正保春彦、金丸隆太 守屋英子、岸良範	11/26(土)、12/4(日) 12/10(土)、12/17(土)	一般市民 15名 受講生 16名
新しいインターネット の利用法	本田敏明	12/20(火)、12/21(水) 12/22(木)	一般市民 15名 受講生 12名



心理教育相談室の活動

心理教育相談室では12月末日現在で、計37件の新規相談を受け付けました。例年とほぼ同様のペースで活動を続けておりますが、実践センターの引っ越しのため、今年度の活動は2月一杯までとなります。

また、心理教育相談室は2012年4月より、教育学研究科臨床心理相談室として再スタートを切ることになりました。この機会に過去11年間の活動を数字で振り返ってみました。2011年度の新規相談件数16件、のべ面接回数79回から始まった活動ですが、2010年度にはそれぞれ49件、1977回まで増加しており、まさに隔世の感があります。地域サービスの他、現在は学校臨床心理専修の大学院生の重要な実習の場としても機能しており、今後も一層の発展を期待したいと思います。

月	新規相談	延べ面接回数
4	3	160
5	3	171
6	8	164
7	1	157
8	5	88
9	2	148
10	4	174
11	4	183
12	7	182
1	0	150
2	1	207
計	38	1784

年度	新規相談	のべ面接回数
2001	16	79
2002	31	254
2003	45	877
2004	47	1037
2005	42	1422
2006	40	1709
2007	36	1873
2008	57	1872
2009	38	1951
2010	49	1977
2011	38	1784
計	439	14835

そ の 他 の 活 動

県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

活動メンバー

大学院学校臨床心理専攻修士1年9名
学部生7名（家庭専修2名・社会専修1名・養護教諭養成課程1名・人文学部心理コース3名）

指導教員

守屋英子・金丸隆太（学校臨床心理）
三輪壽二（学校教育）

連携先

茨城県教育庁高校教育課
県立鹿島灘高校・県立結城第二高校

活動の内容・目的

平成17年度に開校したフレックススクール県立鹿島灘高等学校（通信制・三部制）および平成20年度に同じくフレックススクールとして開校した県立結城第二高等学校へ、生徒達の心のケアの一端を担うこと（気軽な話し相手となり、生徒達のストレスを軽減する）を目的とするキャンパスエイドとして学部生・大学院生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の4点である。

(1)生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動。

(2)「心理学」（必修授業）の授業時に補助として参加するなど学校カウンセリングに関わる活動。

(3)学校カウンセリングに関わる校内研修会等への参加。

(4)活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を、毎回校長に提出する。

今年度の活動

5月より活動開始。鹿島灘高校・結城第二高校ともに週に5日、メンバーが交代で活動した。毎月最終週にミーティングを持

ち、1ヶ月のキャンパスエイド活動を振り返る機会を持った。活動上疑問や困難を感じることにについて全体で話し合った後、高校ごとに分かれて、エイドの居る部屋に来室する生徒についての情報を共有した。

また、それぞれの高校で「キャンパスエイド研究協議会」を持ち、高校の教員とキャンパスエイドとの情報交換を行った。3月に茨城大学で開催する「茨城地域教育臨床研究会」第3回にて、鹿島灘高校・結城第二高校それぞれでの1年間の活動報告をし、その内容を学校臨床心理専攻紀要「心理臨床研究第5号」に掲載する予定である。

活動の成果・意義

どちらの高校でもキャンパスエイドが常駐しているフリースペース、エイド室が生徒達に広く知られるようになり、来室者が増えている。フレックススクールとして地域に知られるようになり、中学時代に不登校を経験した生徒の受験が年々増えている現状がある。また中学の時には欠席が相当多かった生徒が、入学後は欠席日数が少なくなっているという実態があり、キャンパスエイド活動もその一助となっていると高校側から評価を受けている。

ミーティングでのキャンパスエイドからの発言では、生徒達への接し方における自分自身の変化が語られたり、来室する生徒達の成長が語られたりしていた。1年間の体験を通して学び得ているものは多くあるようである。

今後の課題

エイドが毎日常駐するには学校臨床心理専攻の院生だけでは人数が足りない。院生の実習日以外の曜日に入ることでできるボランティア学生の確保が課題である。

JICAへの協力

2011年11月10日に「算数科における教員の授業実践能力の向上」コースのJICA研修員8名が、日本の算数教育、特に大学教育学部（現職教員養成機関）における教員養成の現状と課題、算数科指導技術の向上に向けた取組についての研修のため、茨城大学教育学部を訪れた。

橋浦洋志教育学部副学部長、村野井均教育学部附属教育実践総合センター長らの歓迎の挨拶の後、学内施設として、特に電子黒板などの機器に興味を持った一行は、実際に電子黒板に投影した資料画面に書き込みをしたりして操作を体験した。電子黒板は従来のように、書いたものをその都度、消す前に保存することが可能であり、毎回の学習の過程を振り返ることができることや、教科書を拡大して投影しながら説明することで、子どもたちが顔を上げた状態で授業を受けることができるなど利点などに関心を示していた。



↑ JICA研修生ら訪問団のみなさん



↑ 電子黒板の説明の様子



↑ 学生とのディスカッションの様子

その後、数学選修の学生を中心とした学生らとのグループディスカッションが行われ、教員を志した動機や日本の大学生活と中南米との比較などを中心に意見交換が行われた。通訳を介してではあったが、非常に打ち解けた雰囲気の中、熱心な意見交換が行われ、本学学生にとっても大きな刺激となった。



↑ 中南米音楽研究会との交流の様子

昼休みには、野外で演奏を行っていた中南米音楽研究のサークルに飛び入り参加、自国の音楽に合わせてダンスを披露してくれた研修生もいた。

学生食堂にて会食後、午後は本学部小口祐一准教授による「茨城大学教育学部における算数・数学教員の育成」と加藤崇英准教授による「日本における教員養成の現状と課題」についての講義を受け、本学を後にした。



↑ 講義をする小口祐一教育学部准教授（左）と加藤崇英教育学部准教授（右）



↑ 施設見学で剣道を見学



↑ 学生とともに昼食

平成23年度 理科支援員配置事業 「理科支援員」の募集について

○事業の概要

文部科学省では、「次代を担う人材への理科教育」を充実させるため、平成19年度より独立行政法人科学技術振興機構を通じ、「理科支援員配置事業」を実施しています。

水戸市教育委員会では、水戸市内の小学校へ配置する「理科支援員」を募集しています。

活動期間 平成23年9月下旬頃～平成24年1月頃

勤務場所 水戸市内の小学校(5・6年生の学級)

勤務内容 観察・実験等の準備・後片付け、理科室・理科準備室の整備
観察・実験等の支援、教材の作成への支援等

*勤務について

A 新規配置校

1学級あたり、1日2～3時間、合計33時間程度支援します。

1人で2～3学級を担当します。

B 既配置校

1学級あたり、1日2～3時間、合計9時間程度支援します。

1人で2～5学級を担当します。2校勤務することもできます。

*水戸市の臨時職員として賃金(時給1,000円+交通費)が支払われます。

○事前説明会・研修会の実施

第1回説明会 平成23年7月19日(火) 教育実践総合センターゼミ室 水戸市教育委員会 担当者

第2回説明会 平成23年8月9日(火) 教育実践総合センターゼミ室 水戸市教育委員会 担当者

第3回研修会 平成23年9月27日(火) 教育実践総合センターゼミ室 水戸市教育委員会 担当者

平成23年度 理科支援員活動状況

A 新規配置校

NO.	学校名	支援員希望人数	活動人数	所属・学年
1	寿小学校	2	2	家庭4年
				大学院・家庭1年
	計	2	2	

B 既配置校

NO.	学校名	支援員希望人数	活動人数	所属・学年
1	五軒小学校	1	1	国語3年
2	新莊小学校	1	1	英語2年
3	浜田小学校	1	1	大学院・特専1年
4	吉田小学校	2	2	特別支援1年
				情報文化2年
5	飯富小学校	1	1	国語4年
6	千波小学校	1	1	社会4年
7	赤塚小学校	1	1	理学部・学際理学4年
8	堀原小学校	1	1	理学部・学際理学4年
9	稲荷第二小学校	1	1	理科3年
10	鯉淵小学校	1	1	技術4年
11	内原小学校	1	1	理科3年
	計	12	12	

「電子黒板・電子教科書の可能性を考える ～これからの学校教育の情報化について～」の講演会を開催

2011年12月16日（金）に茨城大学教育学部附属教育実践総合センター主催、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会後援で、電子黒板や電子教科書などのデジタルコンテンツの活用性を考える講演会が13時から16時まで行われました。茨城県内の現職教員や教員を目指す学生ら約200名が参加しました。

第Ⅰ部では、奈良教育大学大学院教授の小柳和喜雄教授による「電子教科書・デジタルコンテンツの活用可能性」についての講演が行われ、続いてNHKの青少年・教育番組担当の宇治橋祐之氏が制作者の立場からデジタルコンテンツを活用している学校を取材した経験に基づいて講演しました。

第Ⅱ部は、東京書籍 ICT 事業本部川瀬徹氏により、「電子黒板・デジタルコンテンツ教科書の活用と今後の展開」と題した講習会が行われました。実際に電子教科書を使いながら、江戸時代に測量によって作成された地図と衛星などを使った最新の技術で作成した地図を、それぞれデジタル化し重ね合わせて見せることによって、その正確性を確認する方法などが示されました。また、英語の教科書ではスピーチのスピードを変化させる方法や話者の順番を変える方法、英単語問題を作る方法などを紹介してくれました。参加者は興味深く見入っていました。

会場内は、金曜日の午後にも関わらず、補助イスを出しても足りなくて、立ち見が出るほどの参加者となり、教育現場でのデジタルコンテンツへの関心の高さと期待が感じられました。



↑奈良教育大学大学院教授小柳和喜雄教授ら講演者



↑ 講演する奈良教育大学大学院教授小柳和喜雄教授（右）



↑ 予定を上回る参加者で埋まった会場の様子

第1回附属学校フォーラム「地域のモデル校としての附属学校」を開催

2012年2月18日(土)茨城大学教育学部にて、第1回附属学校フォーラム「地域のモデル校としての附属学校—大学・学部との連携をふまえて—」が教育学部D棟201教室で13:00～16:30にわたって開催されました。

今、附属学校は教育実習生の受け入れ校としての機能だけではなく、大学・学部との連携、地域社会におけるリーダー的役割の重要性が強調されています。そこで、「地域のモデル」としての茨城大学教育学部附属学校の在り方について、附属学校の教員と学部教員が一堂に会して理解を深めることを目的としていました。

日頃、教育学部と各附属学校間での連携協力は活発な本学ですが、このように附属学校が一堂に会して開催するのは初めての試みです。

開催に先立ち、小野寺俊茨城県教育委員会教育長及び池田幸雄茨城大学長が挨拶し、本フォーラムへの期待を語りました。続いて、木谷慎一文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室教育大学係長による「教員養成大学・学部の改革と附属学校園の役割」と題する基調講演が行われました。

この中で、木谷氏は、附属学校と大学との連携数が茨城大学は、全国的にも非常に高い数値を上げていることに触れ、ぜひ今後もこの件数を増やし、他大学の附属学校に負けないものを作っていくとともに、茨城ならではのモデル事業や地域の拠点となるような研究を期待していると述べました。

講演後、池田学長から、「秋入学について議論されているが、これは大学だけではなく、小学校からとらえていくべき問題である。21世紀の激動する社会に適合するシステムが必要」との意見があり、そのためにも現場の附属学校の人的及び財源的に厳しい状況について更なる理解とより一層の協力を求めました。木谷氏は、附属学校が今後も大学と連携し、それらを活かし教育の諸問題を解決する起爆剤となってほしいと語りました。



基調講演後は、連携研究について以下のような実践報告がなされました。

- ・「学部と附属学校との研究連携推進状況について」
茨城大学教育学部附属教育実践総合センター長 村野井 均
- ・「数学教育における附属との連携研究の取組」
教育学部教授 根本 博
- ・「親と子の育ちを支える子育て支援への取り組み」
附属学校幼稚園教諭 西野 美奈子
- ・「東日本大震災当日の附属小学校の対応とその後の取り組み」
附属小学校教諭 横山 由里恵
野村 知弘
栗原 裕弥
- ・「スクールボランティアの活用について」
附属中学校教諭 小林 伸彦
小沢 浩
- ・「大学と連携した研究及び地域貢献」
附属特別支援学校教諭 小室 貢

特別支援学校が発表した災害時の障がい者避難所づくりの研究は、緊急性もあり全国のモデル校となる連携研究だろうという評価がありました。また、中学校のスクールボランティアは保護者の自主性を生かした体制なため、地域のモデルになる研究という声がありました。また特別支援学校の教材づくりも、情緒障がい児が一般のクラスに多く入っている現在、教員の役に立つので地域のモデル校として有用であると評判が高かったです。

各学校種ならではの報告に、会場に集まった136名の参加者らは熱心に聴き入っていました。

最後に、尾崎久記教育学部長が、今回のフォーラムの成果を次へつないで、今後も教育学部と附属学校の連携を深め、地域拠点校として取組みを積極的に行っていきたいと締めくくりました。



↑ 基調講演をする木谷慎一文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室教育大学係長



↑ 基調講演後、各附属学校による実践報告が行われた

茨城地域教育臨床研究会

第3回 茨城地域教育臨床研究会（案）

大学生・大学院生による中学・高校内でのメンタル・サポート

日時：平成24年3月26日（月）15時～17時

場所：茨城大学教育学部 A棟2F プレゼンテーションルーム

プログラム：

15:00～(1)ご挨拶

高校教育課 高校教育改革推進室 室長	鈴木一弘先生
茨城大学教育学部地域連携委員会委員長	村野井均先生
茨城地域教育臨床研究会 代表	守屋英子先生

15:10～ (2)ポスターセッション

A:茨城県立鹿島灘高校におけるキャンパスエイド活動
B:茨城県立結城第二高校におけるキャンパスエイド活動
C:茨城大学教育学部附属中学校、カウンセリングルームにおける活動

15:40～ (3)学校からみた学生による活動と校内のメンタル・サポート

①茨城県立鹿島灘高校より	川上正裕先生
②茨城県立結城第二高校より	岩崎祐児先生・飯塚英夫先生
③茨城大学教育学部附属中学校より	岡部正徳先生

16:10～ (4)スクールカウンセラーからみた学生による活動と校内のメンタル・サポート

①茨城県立鹿島灘高校スクールカウンセラー	中山恵美子先生
②茨城県立結城第二高校スクールカウンセラー	光林智暁先生
③茨城大学教育学部附属中学校スクールカウンセラー	大場朋子先生

16:30～ (5)フリーディスカッション

17:00 終了

文教ニュース・文教速報への掲載

茨城大学教育学部の地域連携活動は、全国的に注目され、文教ニュース・文教速報に9回掲載されました。文教ニュース・文教速報は文部科学省・関連機関、国立大学法人において購読・回覧される冊子です。

文教ニュース・文教速報掲載リスト

茨城大学	水戸市内の被災校へボランティア派遣	5月6日	文教速報
茨城大学	水戸市内の被災した学校へボランティア派遣	5月9・16日	文教ニュース
茨城大学教育学部	東日本大震災ボランティア活動報告会を開催	10月17日	文教速報
茨城大学教育学部	第56回教育研究連盟研究集会を開催	10月19日	文教速報
茨城大学教育学部	第56回茨城県教育研究連盟研究集会開催	10月24日	文教ニュース
茨城大学教育学部	JICA研修員が訪問し学生と交流	11月28日	文教ニュース
茨城大学で講演会	電子黒板・電子教科書の可能性を考える	1月23日	文教ニュース
茨城大学教育学部	第1回附属学校フォーラム～地域のモデル校としての附属学校～	2月29日	文教速報
茨城大学教育学部	第1回附属学校フォーラム「地域のモデル校としての附属学校」	3月5日	文教ニュース



水戸市内の被災校へボランティア派遣（茨城大）
 茨城大学教育学部は、水戸市教育委員会と教育連携協定を結んで六年目となり、教育ボランティアは年間約二百名を派遣している。例年は水戸市教委が学校の要望をまとめ、教育学部附属教育実践センターへ送る「こと」になっていて、今年度は震災被害へ対応するために年度当初から、随時、要望を送ってもらうことにした。

また例年、茨城県内の学校・幼稚園・保育園・公民館・社会福祉施設からのボランティア派遣の要望に応じているが、教育実習協力校を中心に、被災状況を把握し、ボランティア派遣の有無を確認し、要請に基づき学生を募ったところ、多数の学生から申し出があり、順次活動を行っている。被災により保育室が使用できず、六十名の園児を一室で保育しなければならない水戸市立内原幼稚園では、学生が保育補助のボランティアを行い、活動に参加した学生は「実家が被災し、震災直後は大変だった。自分が教育現場で何かできることがあればと思っていたので、役立てて良かった」と園児たちに笑顔で接していた。

ボランティア支援の要望内容は学校などでさまざまな児童たちの相談相手以外にも、震災の片付けが間に合わない小学校からは、教育連携協定を結んで年目となり、教育ボランティアは年間約300名を派遣している。例年は水戸市教委が学校の要望をまとめ、教育学部附属教育実践センターへ送る「こと」になっていて、今年度は震災被害へ対応するために年度当初から、随時、要望を送ってもらうことにした。

また、例年、被災校への支援活動として、水戸市立笠原小学校では、新学期も始まり、なかなか進まない教室の復旧作業に手を貸してもらい非常に助かっていると感謝の言葉が送られている。センターでは、今後も引き続き学校からの支援要請にできるだけ対応したいとしている。

5月6日 文教速報

茨城大学
水戸市内の被災した学校へボランティア派遣

茨城大学教育学部は水戸市教育委員会と教育連携協定を結んで年目となり、教育ボランティアは年間約300名を派遣している。例年は水戸市教委が学校の要望をまとめ、教育学部附属教育実践センターへ送る「こと」になっていて、今年度は震災被害へ対応するために年度当初から、随時、要望を送ってもらうことにした。

また、例年、被災校への支援活動として、水戸市立笠原小学校では、新学期も始まり、なかなか進まない教室の復旧作業に手を貸してもらい非常に助かっていると感謝の言葉が送られている。センターでは、今後も引き続き学校からの支援要請にできるだけ対応したいとしている。

5月9・16日 文教ニュース

茨城大教育学部、東日本大震災ボランティア活動報告会を開催

茨城大学教育学部附属教育実践センター（村野井均センター長）は、「東日本大震災ボランティア活動報告会」を十月六日に行った。震災直後、即時に対応できる大学が少なく、同センターでは、附属学校のほか、近隣の公立学校も含め、特に教育現場での復旧作業などに集った学生ボランティアを募集し派遣した。この活動は内外でも評価されていることから、同センターでは「せめて活動の証明書だけでも欲しい」と報告会を開催した。

開催に当たっては尾崎久記教育学部長はボランティア活動に参加した学生たちに「震災という体験を通して、皆さん自身も被災者という立場でいろいろ気づいたことがあったと思います。今回の経験を活かして、これからも勉学に励んでください」と挨拶した。続いて、村野井センター長が全国の附属学校施設の中でも被害の大きかった附属小学校の様子を紹介し、当初は今年度中の授業再開も危ぶまれた中、早い時期に再開できたのは学生ボランティアの働きが非常に大きかったと感謝の言葉を述べた。

ボランティア活動報告では、附属小学校で教育施設の復旧作業や力仕事となった給食配膳の作業を行った社会福祉協議会職員が「非常時における現場の先生方の判断や対応は素晴らしい。教員を自問す上でもとても良い経験になった。不適にできていたことが突然できなくなったときに、互いに助け合っただけで済ませることが出来た」と活動の様子を振り返った。

また、保育施設の一部に被害があったボランティア報告を行う園児さん幼稚園で、子どもたちの保育補助などのボランティアを行った数学講師二年の猪野沙代さんは「実家がいわき市で震災直後は何をしたらよいかわからなかったが、自分ができることがあればと参加し、遊に子どもたちに元気をもたらしました。少しでも復興の足がかりになればという気持ちでしたが、今後も私ができることをして、子どもたちが元気に過ごせる世の中を目指せればと思います」と話した。

報告の後、尾崎教育学部長から参加学生一人一人に活動証明書が手渡された。

10月17日 文教速報

茨城大教育学部
第56回茨城県教育研究連盟研究会を開催

茨城県教育研究連盟の第五十六回研究会が十月八日、茨城大学水戸キャンパスで開催され、約六百名が参加した。茨城県の教育の発展に寄与することを目的として毎年開催しているもので、教育現場、教育行政、大学がともに一体となり意見を交わす場となっており、全国でもほとんど例のない先進的な取り組み。

全体会では、茨城県教育研究連盟会長の尾崎久紀茨城大教育学部長をはじめ、茨城県教育委員会、茨城県教育会、茨城県学校長会、茨城県教職員組合の代表らが挨拶した。

続いて、小島晋吾茨城大教育学部教授による「六角堂の復興にあたって―六角堂の21世紀への意義」と題した講話が行われ、参加者からは震災で消失した六角堂の茨城県における重要性などの話に耳を傾けていた。

全体会に続いて行われた分科会では、各研究分野におけるそれぞれの課題に取り組んできた発表者らが実践的事例などをもとに研究成果を発表、熱心な討論が交わされた。今年には特に東日本大震災があり、未だに復旧・復興の途にある教育現場もある中で、例年通り開催されたことに関係者も安堵の表情を浮かべていた。



10月19日 文教速報

茨城大学教育学部
第56回茨城県教育研究連盟研究会開催

茨城大学水戸キャンパスにおいて十月八日、「第56回茨城県教育研究連盟研究会」が開催され、茨城県内の教員約600名が参加した。これは、教育現場、教育行政、大学がともに一体となり、茨城県の教育の発展に寄与することを目的として、毎年開催されているものであり全国でもほとんど例がない。

全体会では、茨城県教育研究連盟会長である尾崎久紀茨城大教育学部長をはじめ、茨城県教育委員会、茨城県教育会、茨城県学校長会、茨城県教職員組合の代表らが挨拶した。続いて、小島晋吾茨城大教育学部教授による「六角堂の復興にあたって―六角堂の21世紀への意義」と題した講話が行われ、参加者からは震災で消失した六角堂の茨城県における重要性などの話に耳を傾けていた。

全体会に続いて行われた分科会では、各研究分野におけるそれぞれの課題に取り組んできた発表者らが実践的事例などを基に研究成果を発表、熱心な討論が交わされた。今年には、特に東日本大震災があり、未だ復旧・復興の途にある教育現場もある中で、例年通り開催されたことに関係者もほっとした様子であった。



10月24日 文教ニュース

茨城大学
教育学部
JICA研修生ら訪問し学生と交流

「算数科における教員の授業実践能力の向上」コースのJICA研修員8名が11月10日に、日本の算数教育、特に大学教育学部（現職教員養成機関）における教員養成の現状と課題、算数科指導者の向上に向けた取組についての研修のため、茨城大学教育学部を訪れた。

講演者として教育学部副学部長、村野井均教授が挨拶した。研修員らは、教育学部の実践センター長らの歓迎の挨拶の後、学内施設として、特に電子黒板などに興味を持った一行は、実際に電子黒板に投影した資料画面に書き込みをしたりして操作を体験した。電子黒板は従来のように、書いたものをその都度、消す前に保存することができ、毎回の学習の過程を取り戻すことができることや、教科書を拡大して投影しながら説明することで、子どもたちが理解しやすくなることを、子どもたちが興味を示していた。

その後、数学演習の学生を中心とした学生らとのグループディスカッションが行われ、教員を志した動機や日本の大学生活と中南米との比較などを中心に意見交換が行われた。昼休みには、野外で演習を行っていた中南米音楽研究サークルに飛び入り参加、自国の音楽に合わせてダンスを披露してくれた研修生もいた。

学生食堂にて会食後、午後は同学部小口第一准教授による「茨城大学教育学部における算数・数学教員の育成」と加藤副学部長教授による「日本における教員養成の現状と課題」についての講義を受け、同大を後にした。

教育学部日棟

JICA研修生ら訪問の様子



11月28日 文教ニュース

茨城大学で講演会
電子黒板・電子教科書の可能性を考える

茨城大学教育学部附属教育実践総合センター（村野井均センター長）の主催で12月16日、電子黒板や電子教科書などのデジタルコンテンツの活用性を考える講演会が行われ、県内の現職教員や教員を目指す学生ら約200名が参加した。

奈良教育大学大学院の小柳和喜雄教授による「電子教科書・デジタルコンテンツの可能性」についての講義が行われ、続いてNHKの青少年・教育番組担当の宇治橋祐之氏が制作者の立場からデジタルコンテンツを活用している学校を取材した経験について講演した。講演後は、「電子黒板・デジタルコンテンツ教科書の活用と今後の展開」と題した講習会が行われ、江戸時代に測量によって作成された地図と衛星などを使った最新の技術で作成した地図を、それぞれデジタル化し重ね合わせる方法などが示され、参加者は興味深く見入っていた。

1月23日 文教速報

茨城大教育学部が第1回附属学校フォーラム
「地域のモデル校としての附属学校」

茨城大学教育学部は、第一回附属学校フォーラム「地域のモデル校としての附属学校」——大学・学部との連携をふまえて——を去る一月十八日に同学部で開催した。茨城大では日頃、教育学部と各附属学校間での連携努力は活発に実施しているが、今回のように附属学校が一堂に会して関係するのは今回が初の試み。フォーラム開催に先立ち、小野寺俊哉茨城県教育委員会教育長及び池田幸雄茨城大理事長が挨拶し、フォーラムへの期待を語った。続いて、文科省高等教育局 大学振興課教員 養成企画室の木谷慎一教育大学 部長による「教員養成と附属学校改革と附属学校の役割」と題する基調講演が行われた。



この中で木谷氏は、附属学校と大学との連携数をあげていることに触れ、「ぜひ、今後もこの件数を増やし、他大学の附属学校に負けないものを作っていくとともに、茨城ならではのモデル事業や地域の拠点となるような研究を期待している」と述べた。

基調講演を行う木谷氏は、附属学校と大学との連携数をあげていることに触れ、「ぜひ、今後もこの件数を増やし、他大学の附属学校に負けないものを作っていくとともに、茨城ならではのモデル事業や地域の拠点となるような研究を期待している」と述べた。



各附属学校による実践報告

それらを活かして教育の問題を解決する起爆剤となつてほしいと語った。基調講演後、村野井均教育学部附属教育実践総合センター長、各附属学校代表者らによる実践報告が行われ、各学校種ならではの報告に、会場に集まった百三十六名の参加者らは熱心に聞き入つていった。

最後に、尾崎久記教育学部長が、今回のフォーラムの成果を次につないで、今後も教育学部と附属学校の連携を深め、地域拠点校として取組みを積極的に進めていきたいと締めくくった。

2月29日 文教速報

茨城大学教育学部
第1回附属学校「地域のモデル校としての附属学校」

茨城大学教育学部にて2月18日、第一回附属学校フォーラム「地域のモデル校としての附属学校」——大学・学部との連携をふまえて——が開催された。教育学部と各附属学校間での連携努力は活発に実施しているが、今回のように附属学校が一堂に会して関係するのは初めての試みとなる。



開催に先立ち、小野寺俊哉茨城県教育委員会教育長及び池田幸雄茨城大理事長が挨拶し、フォーラムへの期待を語った。

基調講演が行われた。この中で、木谷氏は、附属学校と大学との連携数が茨城大学では全国的にも非常に高い数値を上げていることに触れ、「ぜひ今後もこの件数を増やし、他大学の附属学校に負けないものを作っていくとともに、茨城ならではのモデル事業や地域の拠点となるような研究を期待している」と述べた。

最後に、尾崎久記教育学部長が、今回のフォーラムの成果を次につないで、今後も教育学部と附属学校の連携を深め、地域拠点校として取組みを積極的に進めていきたいと締めくくった。

3月5日 文教ニュース

教育学部における地域連携活動

平成23年度

発行日 平成24年3月31日

発行 茨城大学教育学部地域連携委員会

茨城大学教育学部附属教育実践総合センター

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

TEL 029(228)8327 FAX 029(228)8328

印刷 佐藤印刷株式会社

